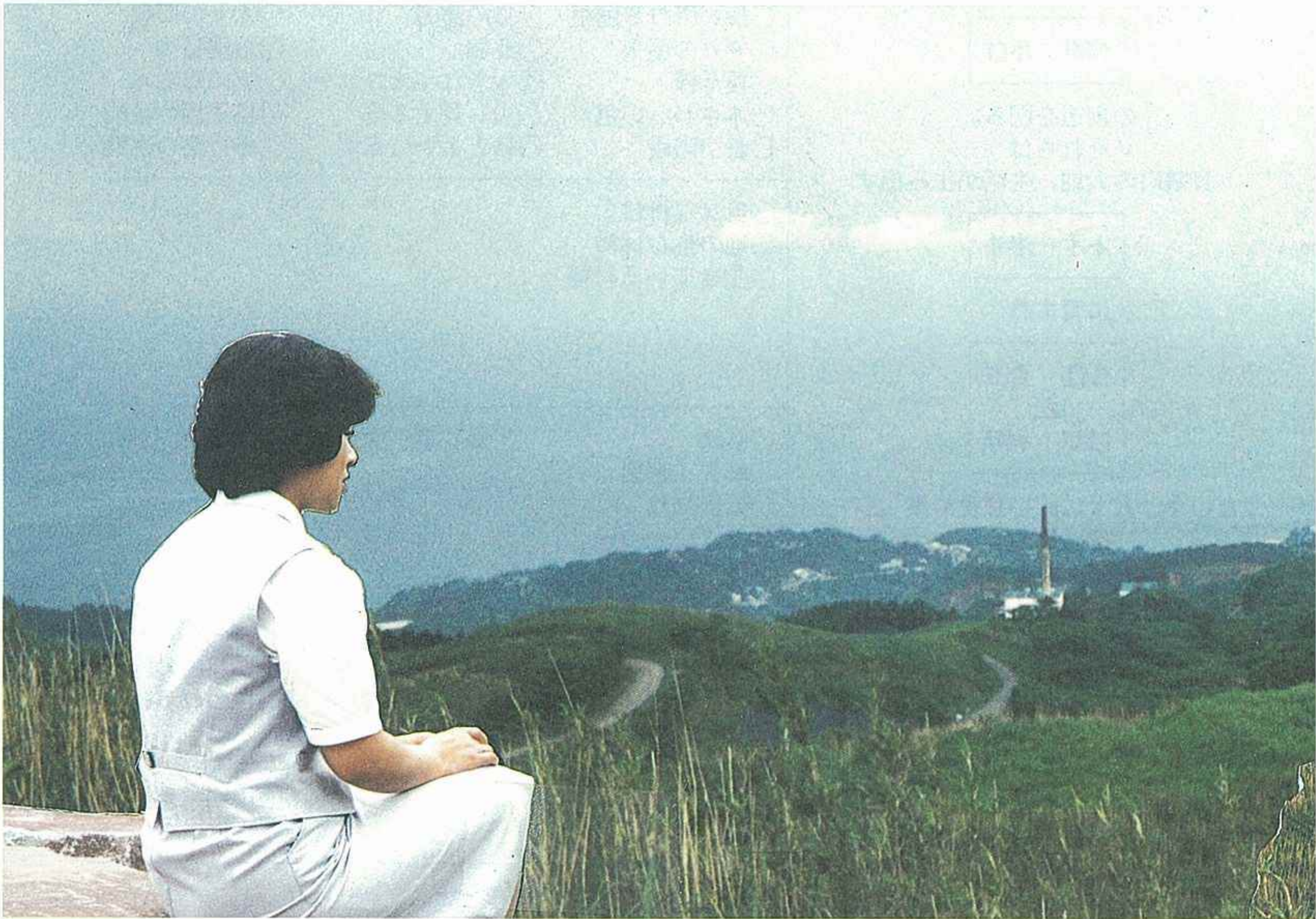
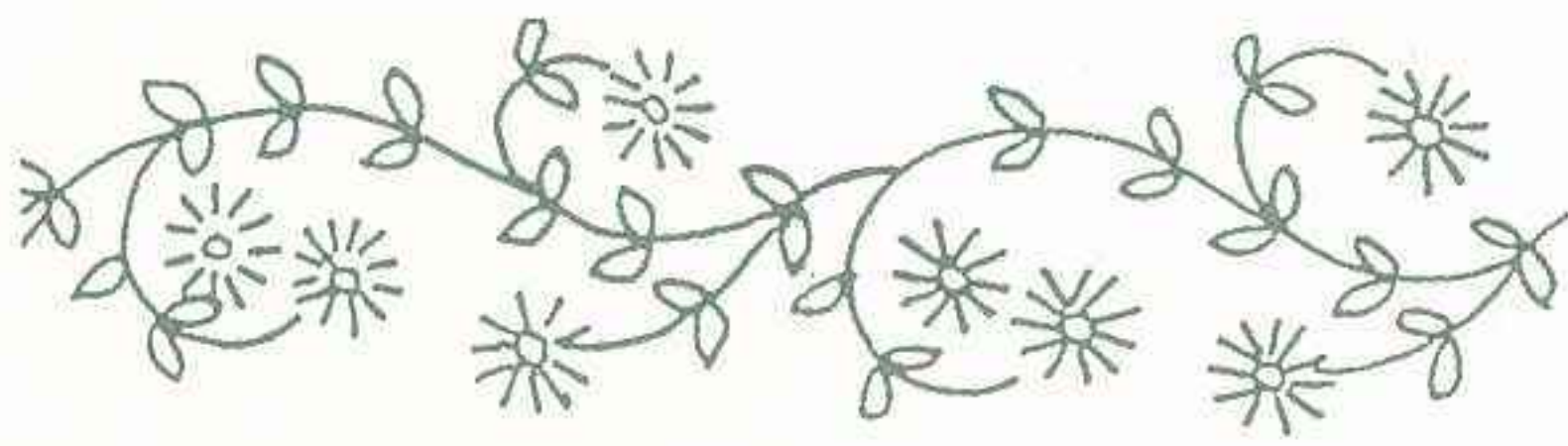
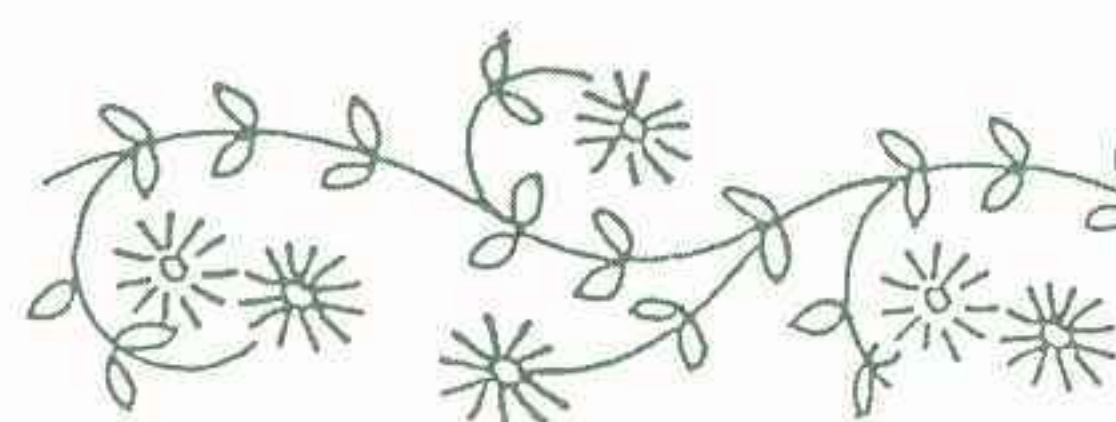




1. 場所

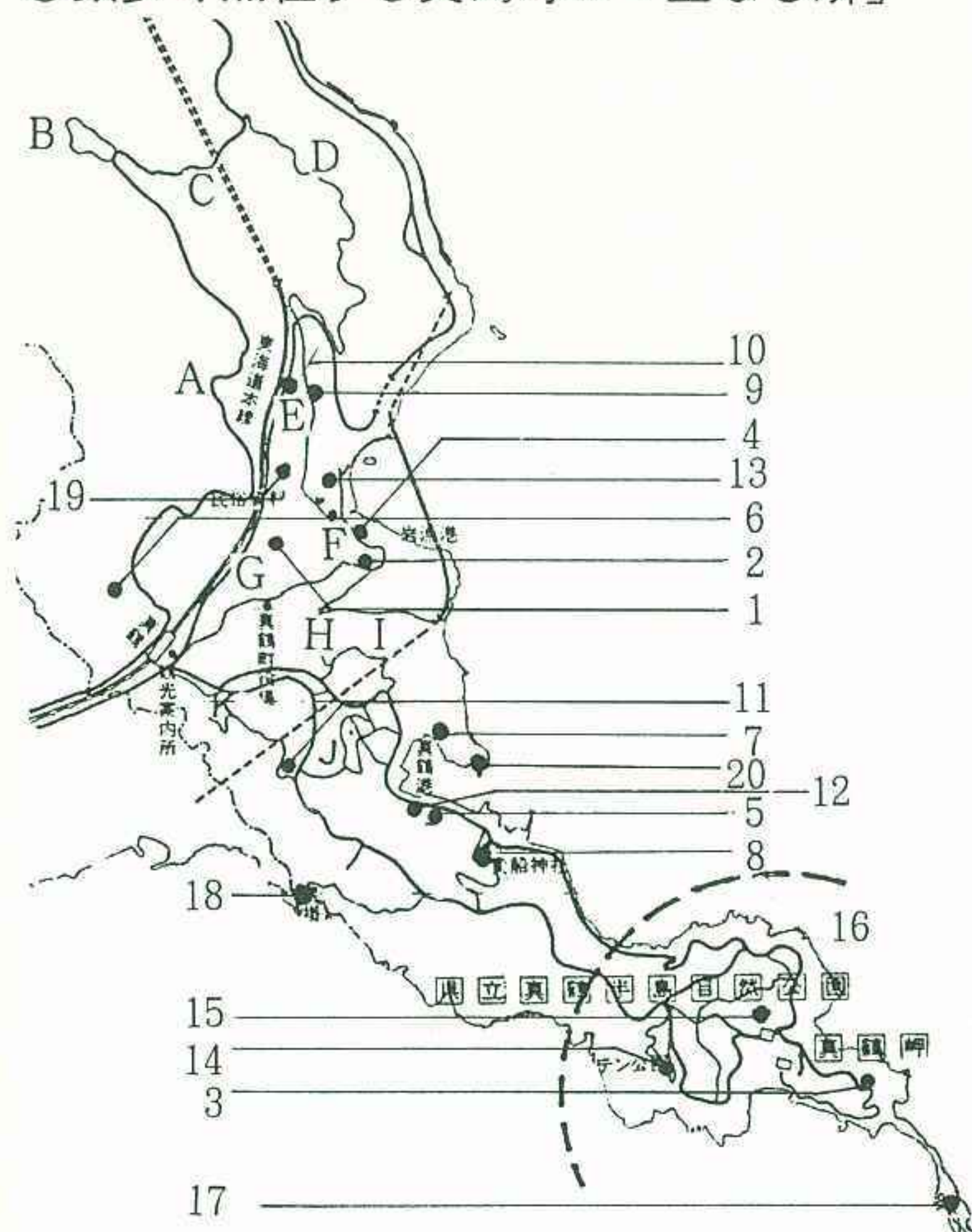
建築は場所を尊重し、
風景を支配しないようにしなければ
ならない。

● 真鶴町、海、森、山、……場所



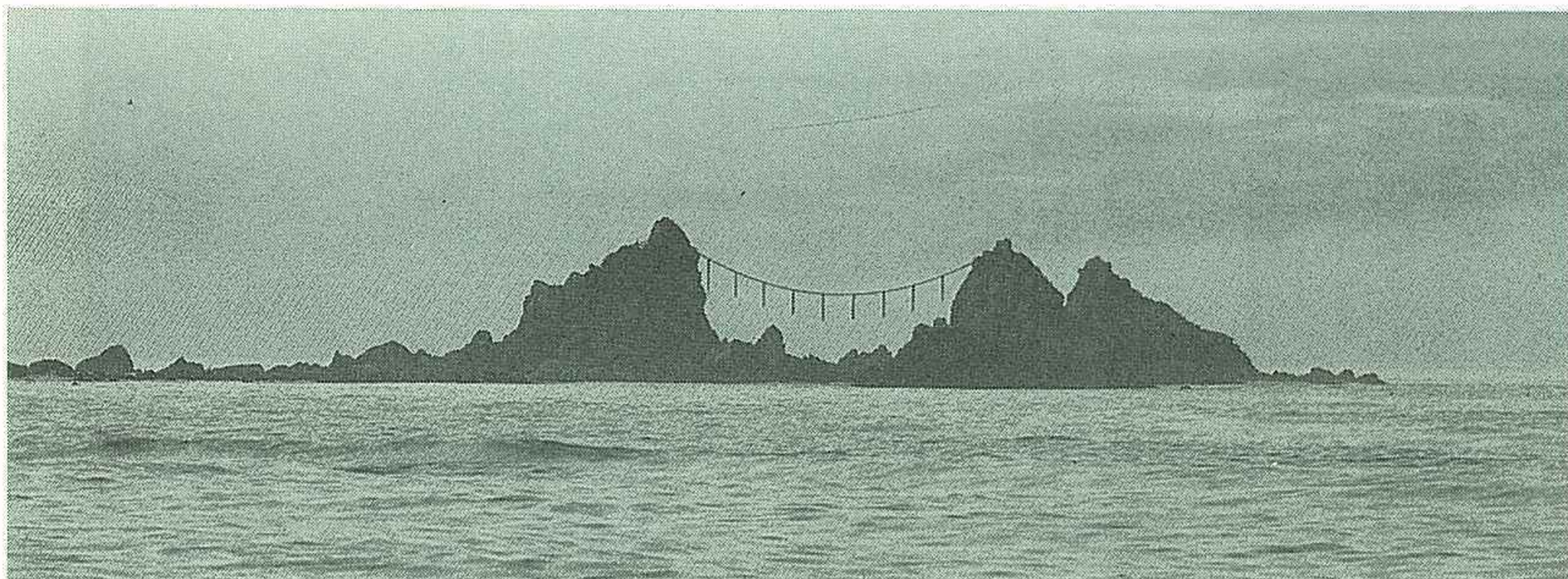
キーワード	前提条件
○聖なる所	御林，真鶴20の歴史ゆかりの場所，そしてそれらを包む自然の輪郭はどれも真鶴が誇るべき『聖地』である。これらの精神的ルーツや過去とのきずなを維持しないと真鶴町は独自のアイデンティティを失ってしまう。

●数多く点在する真鶴町の「聖なる所」



1. 石工先祖の碑
2. 謡坂の碑
3. 与謝野晶子の碑
4. 源頼朝開帆の碑
5. 品川台場礎石の碑
6. 黒田長政供養の碑
7. 風外堂
8. 貴船神社
9. 宝篋印塔
10. 五層塔
11. 荒井城址
12. 鵜の窟
13. 如来寺石窟
14. 内袋観音
15. 灯明山
16. 御林
17. 三ツ石
18. 尻掛海岸漁業発祥の地
19. 兒子神社
20. 日和山
- A~K 道祖神

●神々しい自然の「聖なる所」



解 決 法	課 題
これらを保護し、復活させていく為のあらゆる手段を講じること。	・御林の保全 ・聖地写真集づくり ・聖地マップ ・聖地の積極的再生

- * 1. ～20. の周辺では悪影響のある行為を行わない。
 * A～Kまで及び聖地マップの場所は積極的かつ魅力的に保全する。

●悪影響のある行為を一切認めないものの例

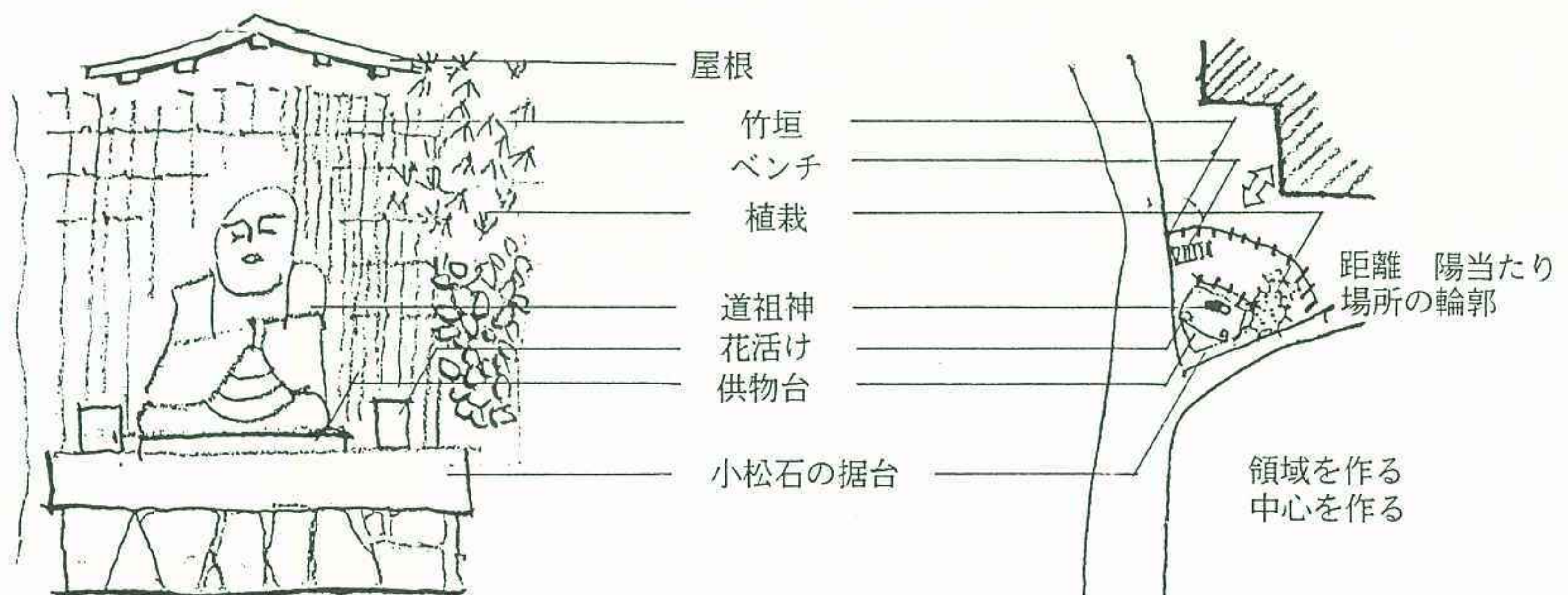


貴船神社



御林

●積極的かつ魅力的に保全したものの例



キーワード	前提条件
○豊かな植生	古代、関東の鬱蒼たる照葉樹林帯であった真鶴の森は、江戸期より魚付林として、「御林」の名で多くの人々に守り、育てられて来た。 いつしか、半島全体が日本の典型的植生を示す森となった。 現在「御林」以外にも半島のあちこちに、クロ松、楠、スダジイなどの大きな植生が見受けられる。 これらの木々の一本一本が、真鶴半島を、海に浮かぶ美しい緑の宝石の様に飾り立てている。

●小田原方面から見た真鶴半島、緑の宝石



●湯河原方面から見た真鶴半島、緑の宝石

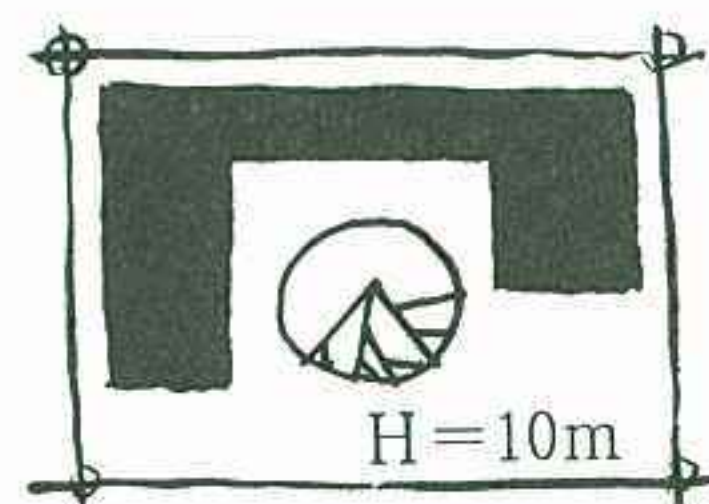


解 決 法	課 題
敷地にあるすべての木々を生かした計画にすること。特に樹齢 100年以上と思われる大木は、原則として切ってはならない。万が一やむを得ないと思われるときは、町と協議の上、移植又は同等の植樹をすること。 伐採したものは建材として利用すること。 更に、やがては、真鶴がかつての照葉樹林帯となるように、建物を覆うような間隔でクロマツ、楠、スダジイを植林すること。	・ 町内の植生調査 ・ 保存樹林のナンバリング ・ 敷地内の詳細な植生報告書の提出

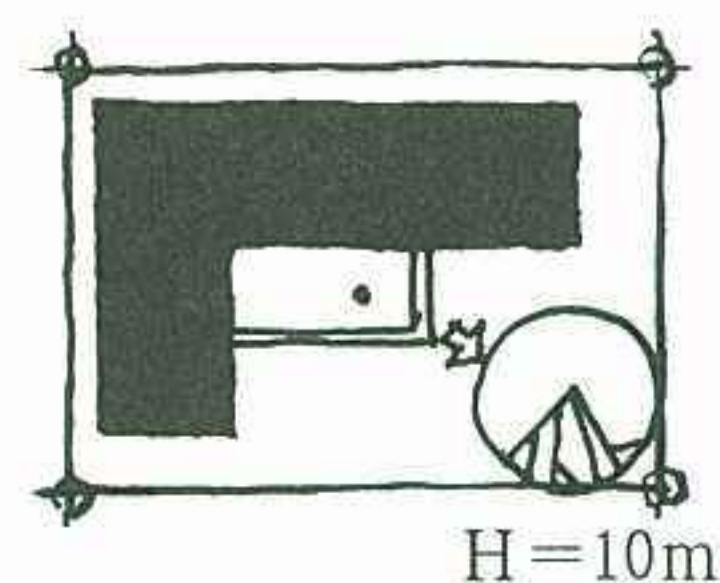


●豊かな植生を維持できるように

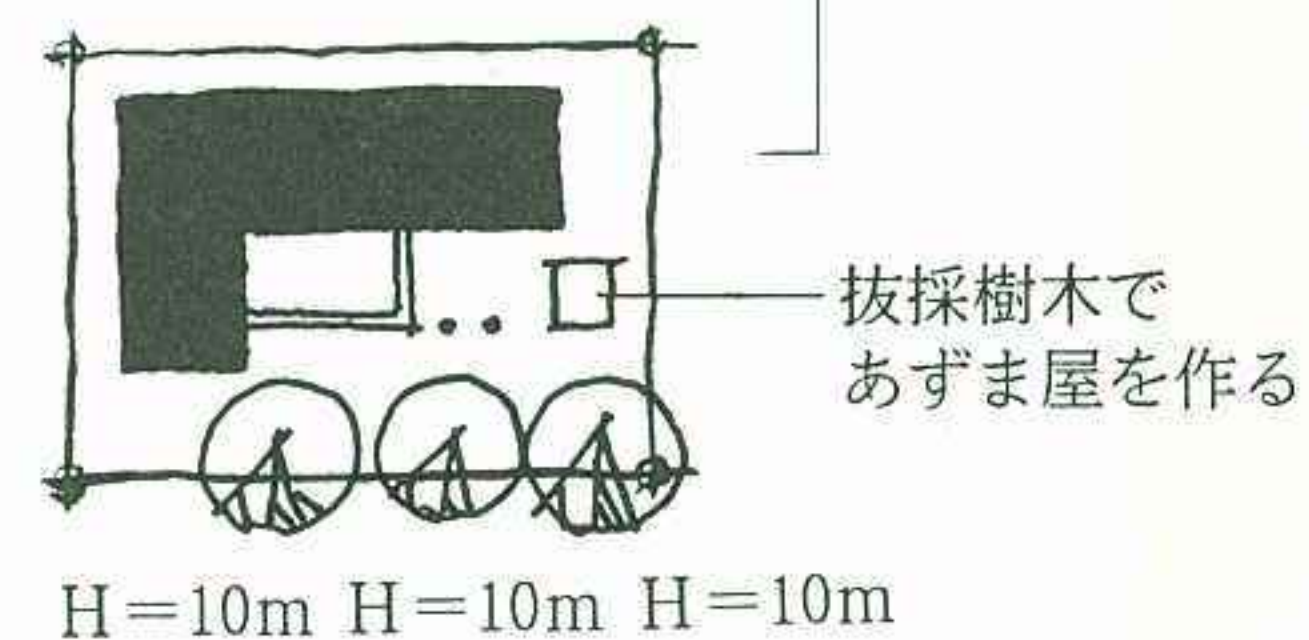
1. 既存樹林を生かした計画にする。



2. 移植する。



3. 同等のものを植樹する。



町と協議の上で

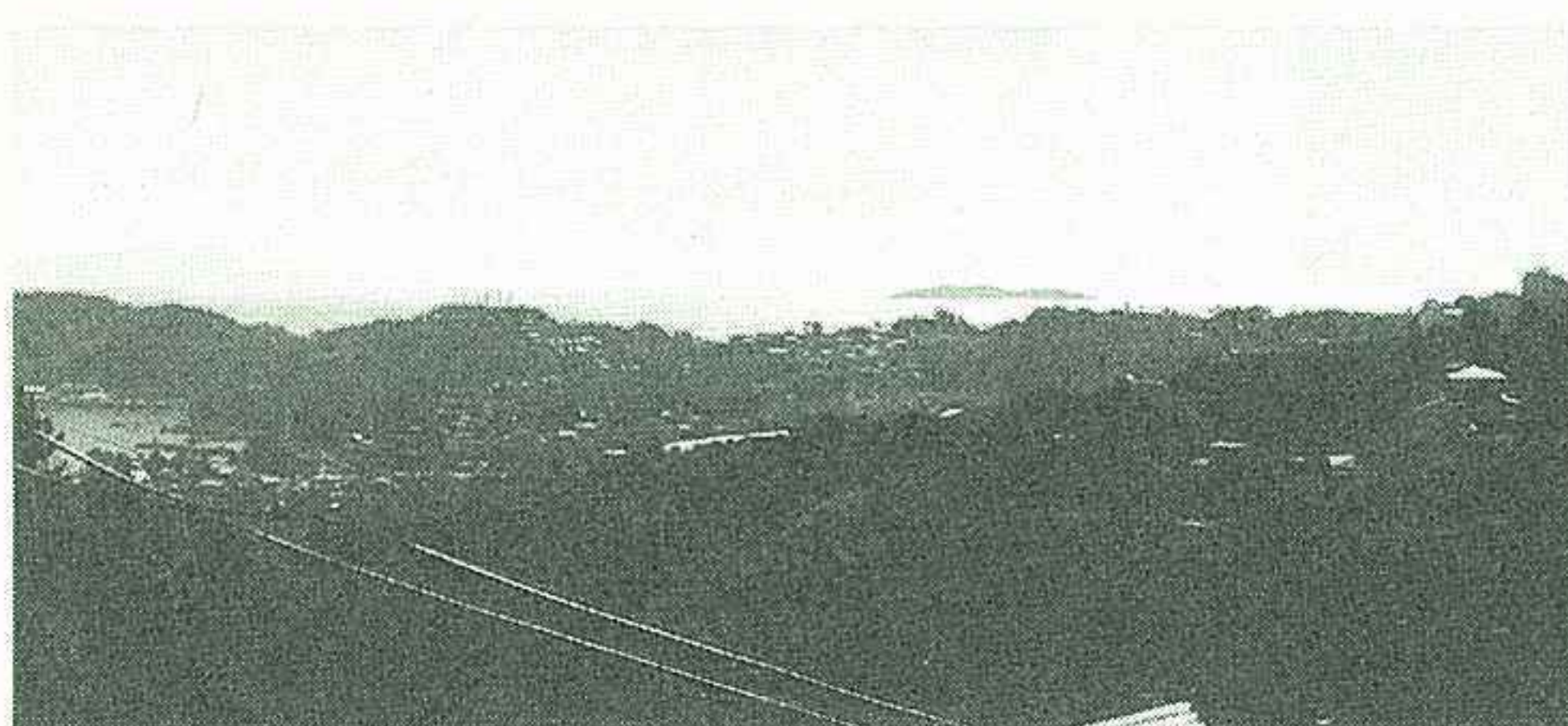
キーワード

前提条件

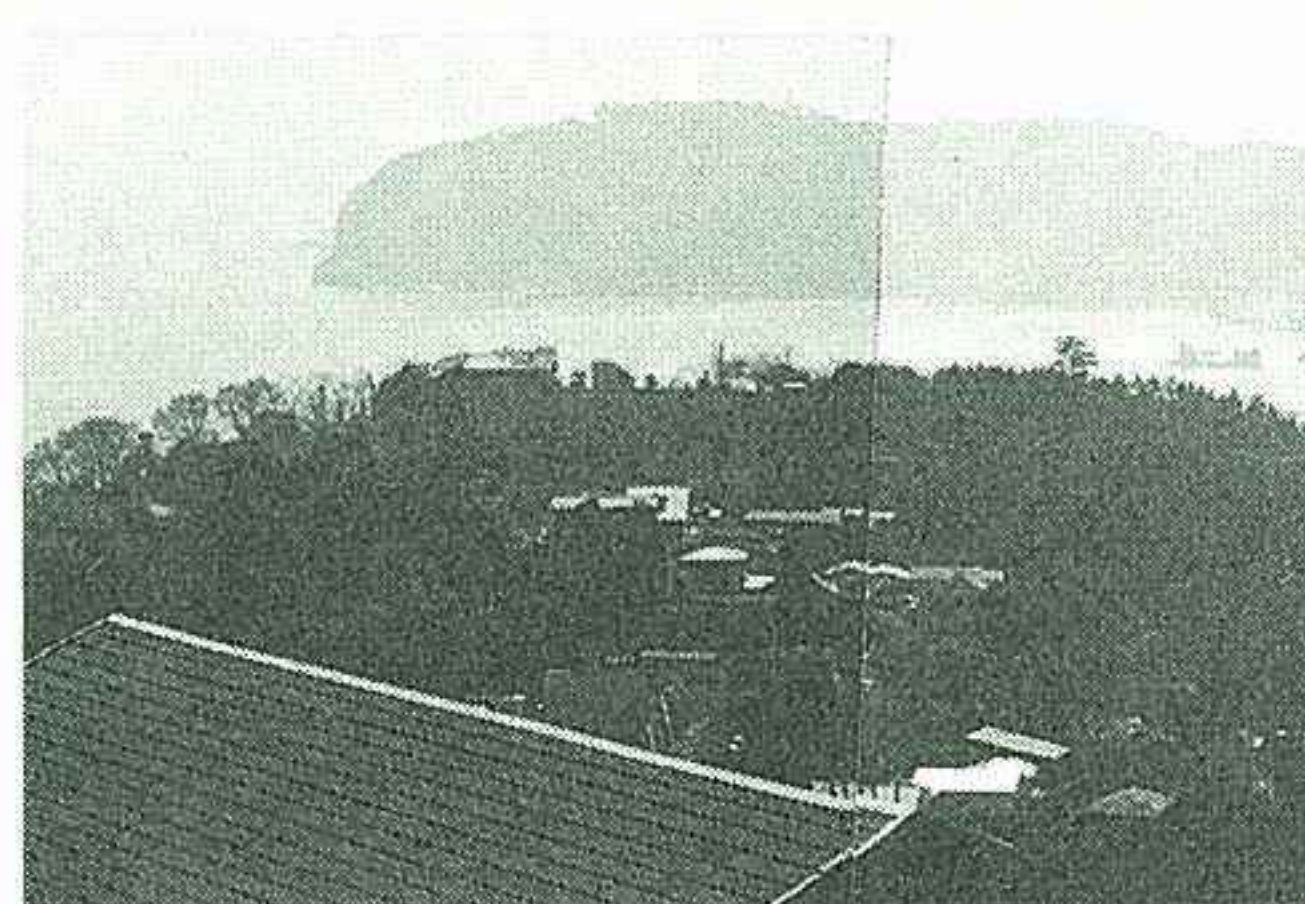
○眺める場所

海に向い長い外形を持つ真鶴は、どこからもさまざまな眺めが望める。私有地、公有地を問わず、これらの風景を見渡す場所そのものが町の財産である。

●初島を望む



●真鶴半島を望む



●遠く大山、湘南を望む



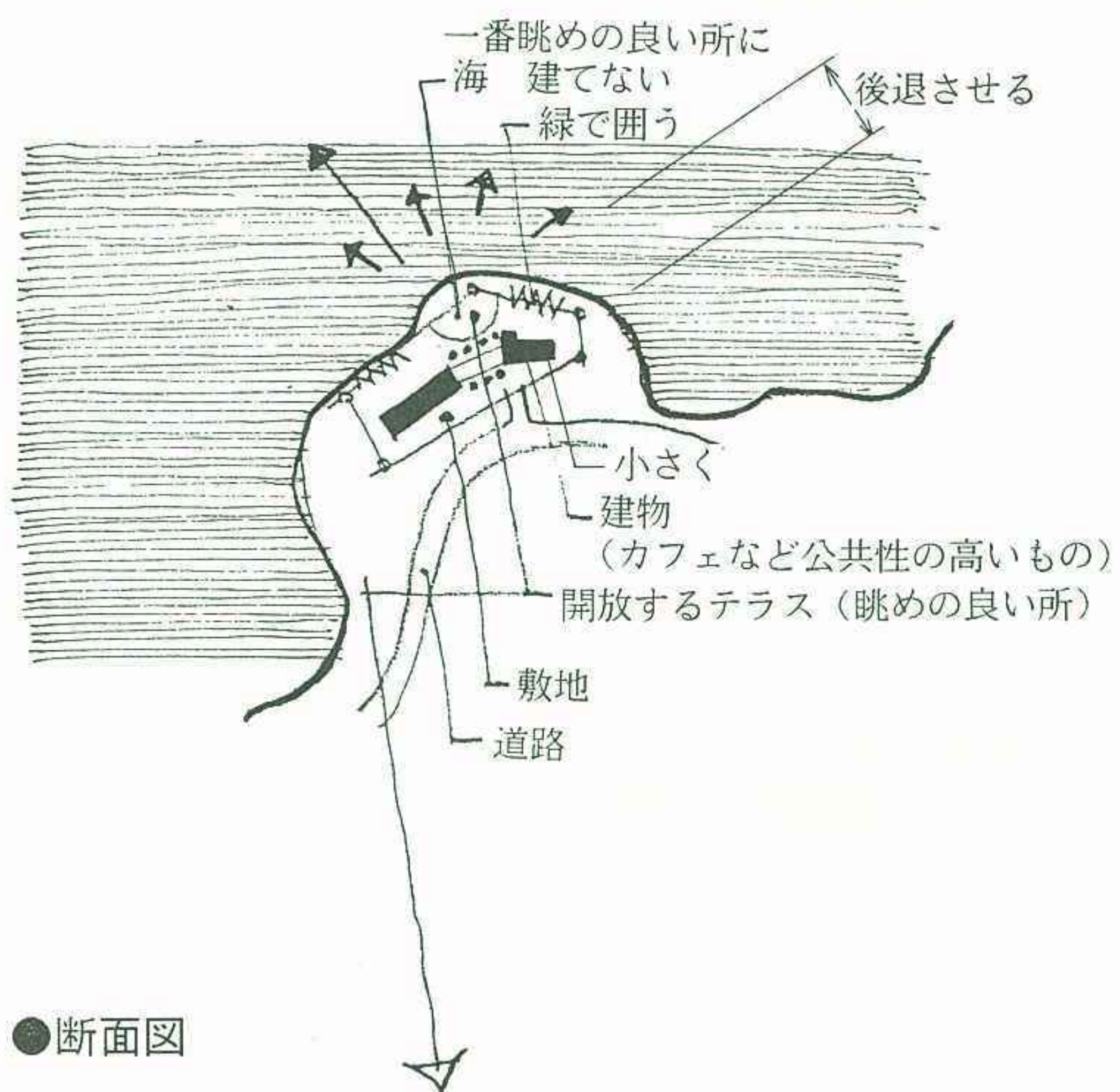
●岩海岸、弁天島を望む



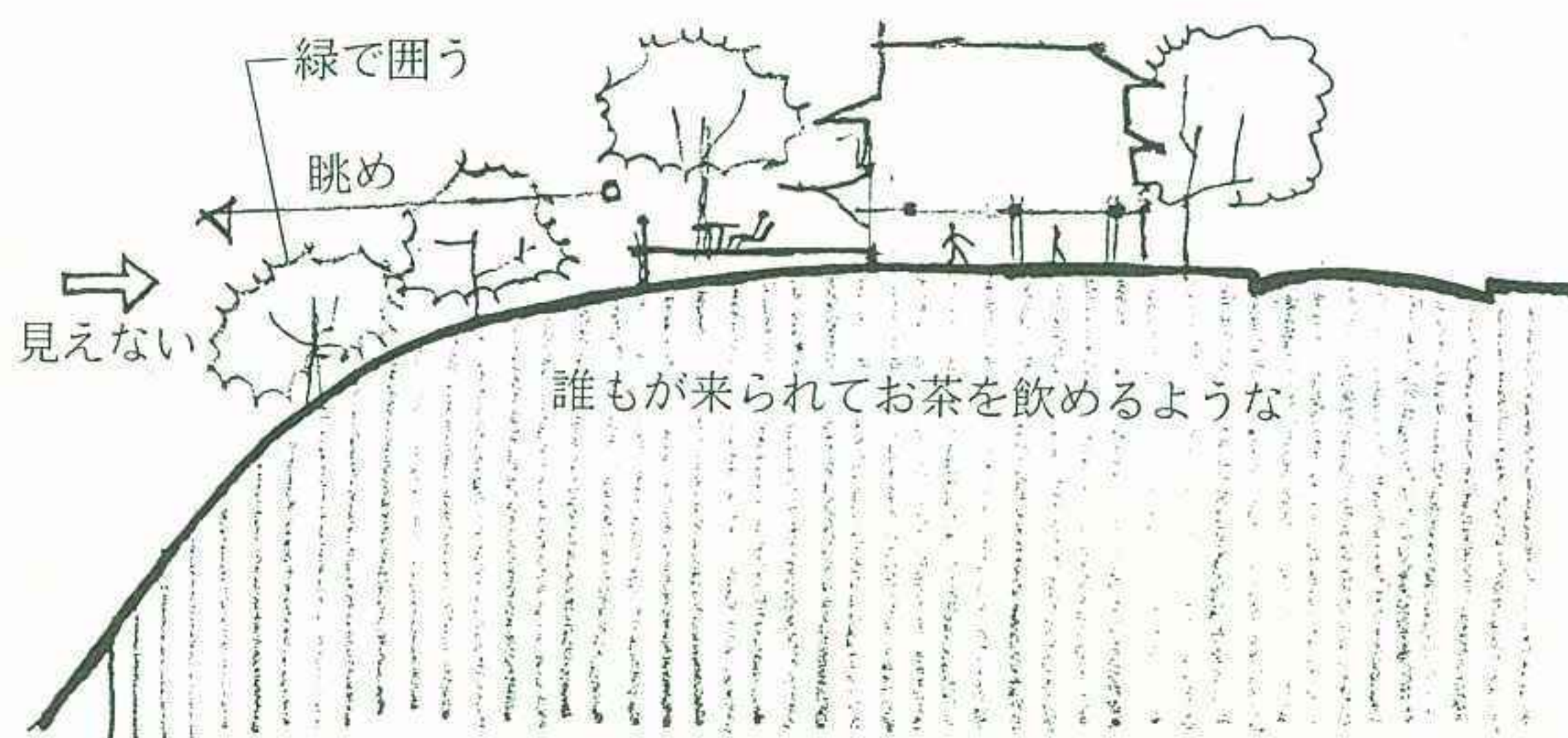
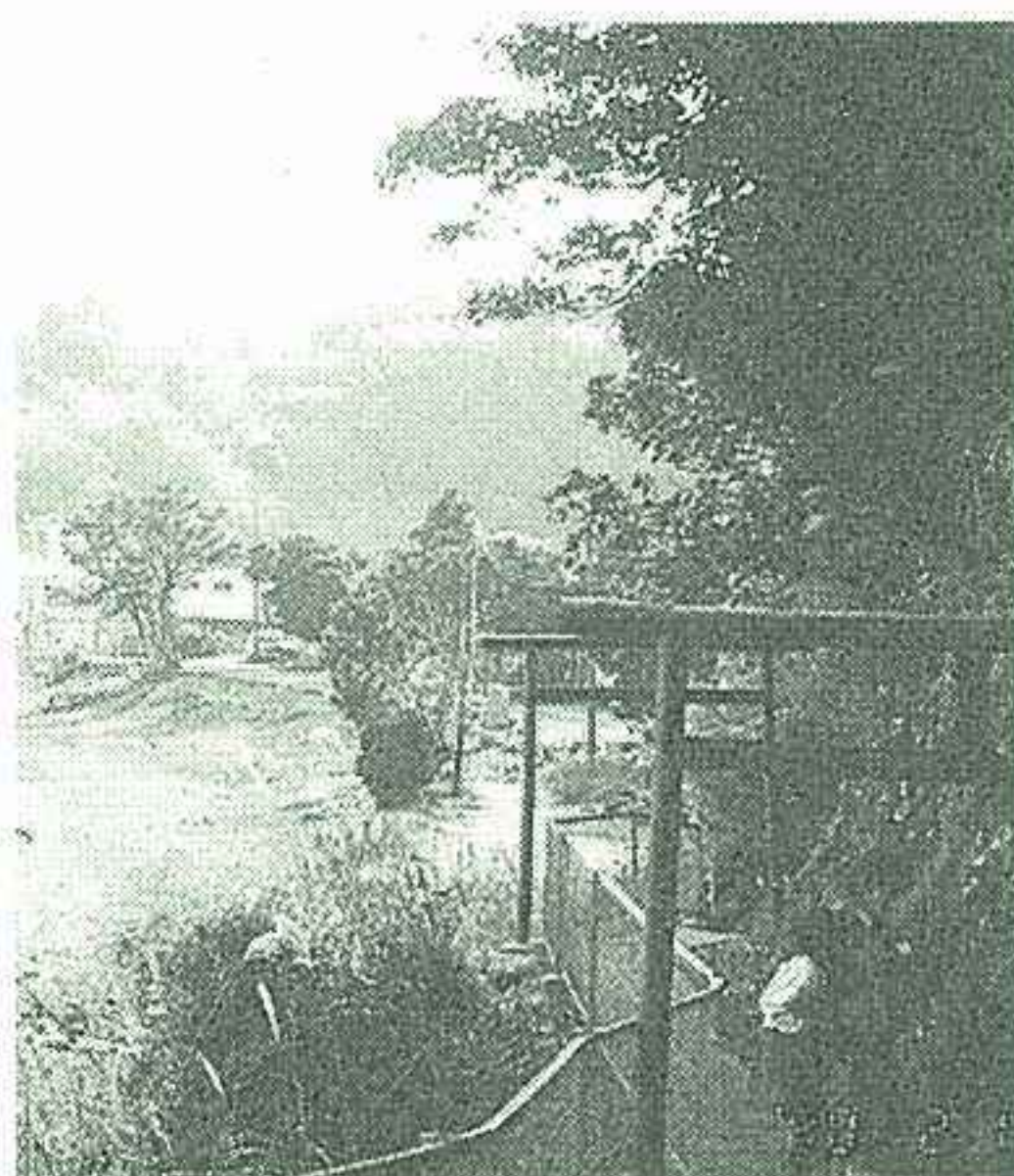
ほんの少しでもよい、町を訪れる人々に眺めを公開する場所と、方法を考え眺める場所を独占しないよう計画すること。

・眺め場所のサイン

●眺める場所の建物



●断面図

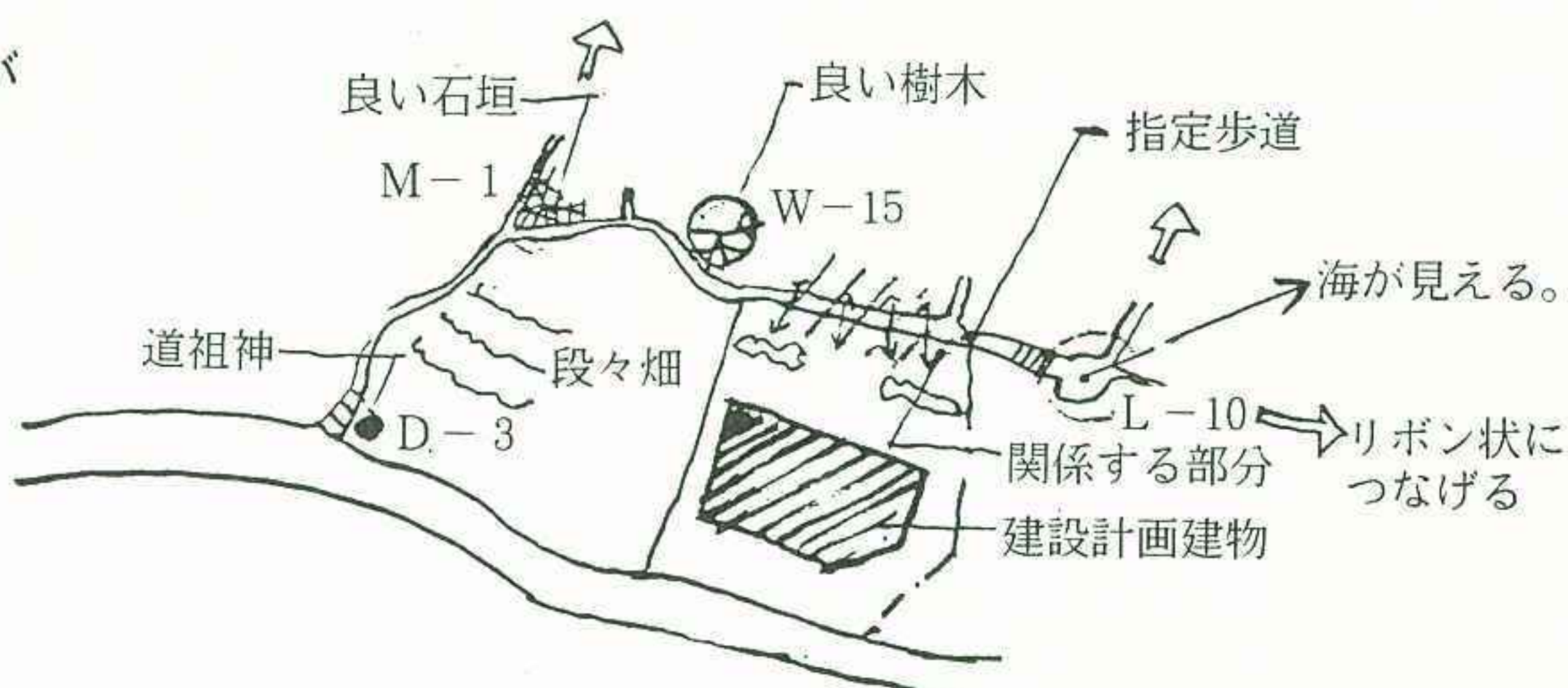


賑わいを演出した建物の背後には、騒音から逃れた『静かな背戸』を用意すること。
既存の小さな裏道を大切に扱うこと。

『静かな背戸』は優しい光が降り注ぎ、騒音から壁や距離や建物で守られるよう、見通し、風景、自然の生態系等を保全し、それらが生きづくよう演出すること。

- ・ 静かな背戸のネットワークづくり
- ・ 静かな背戸写真集づくり

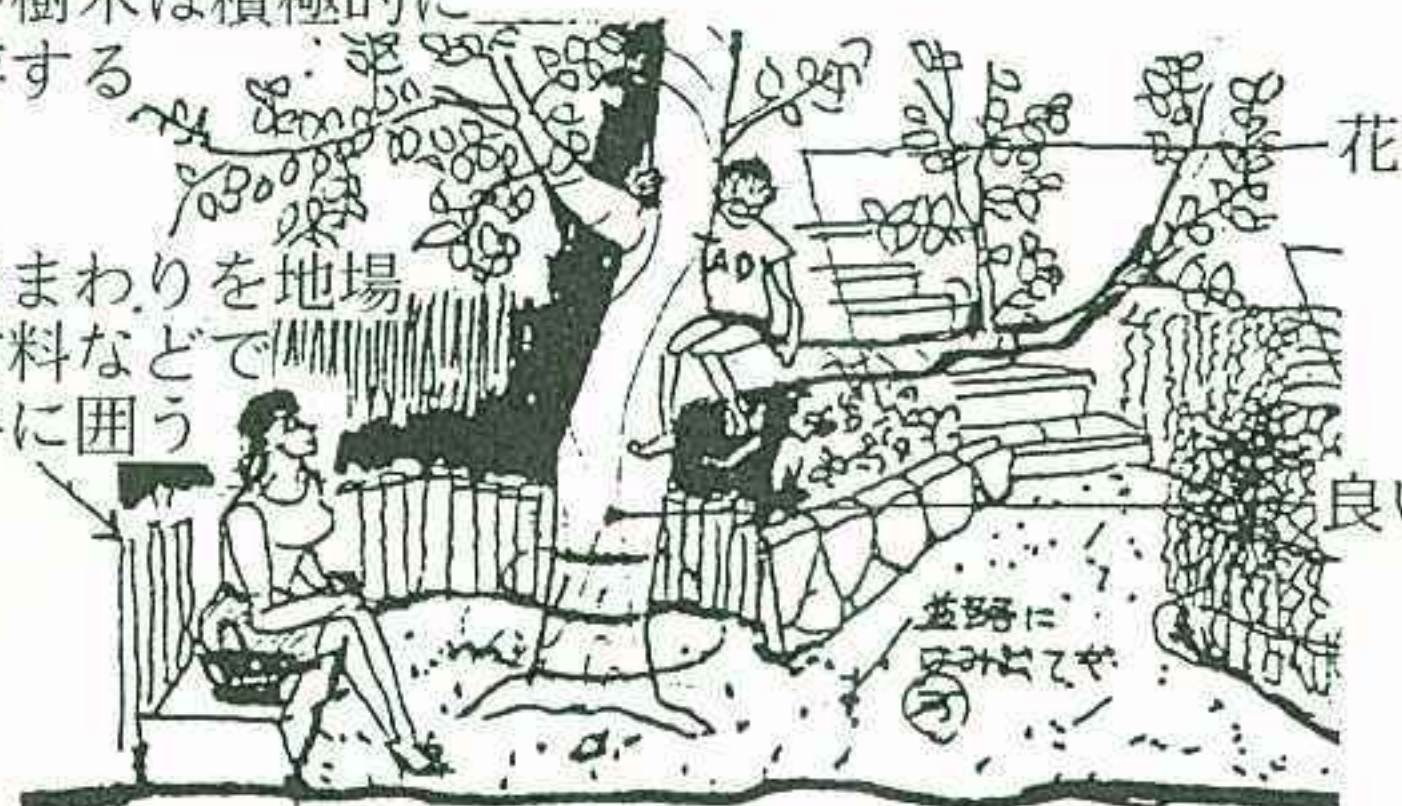
●計画敷地と『静かな背戸』が関係する部分



●大切なものを大切に

良い樹木は積極的に保存する

そのまわりを地場の材料などで上手に囲う

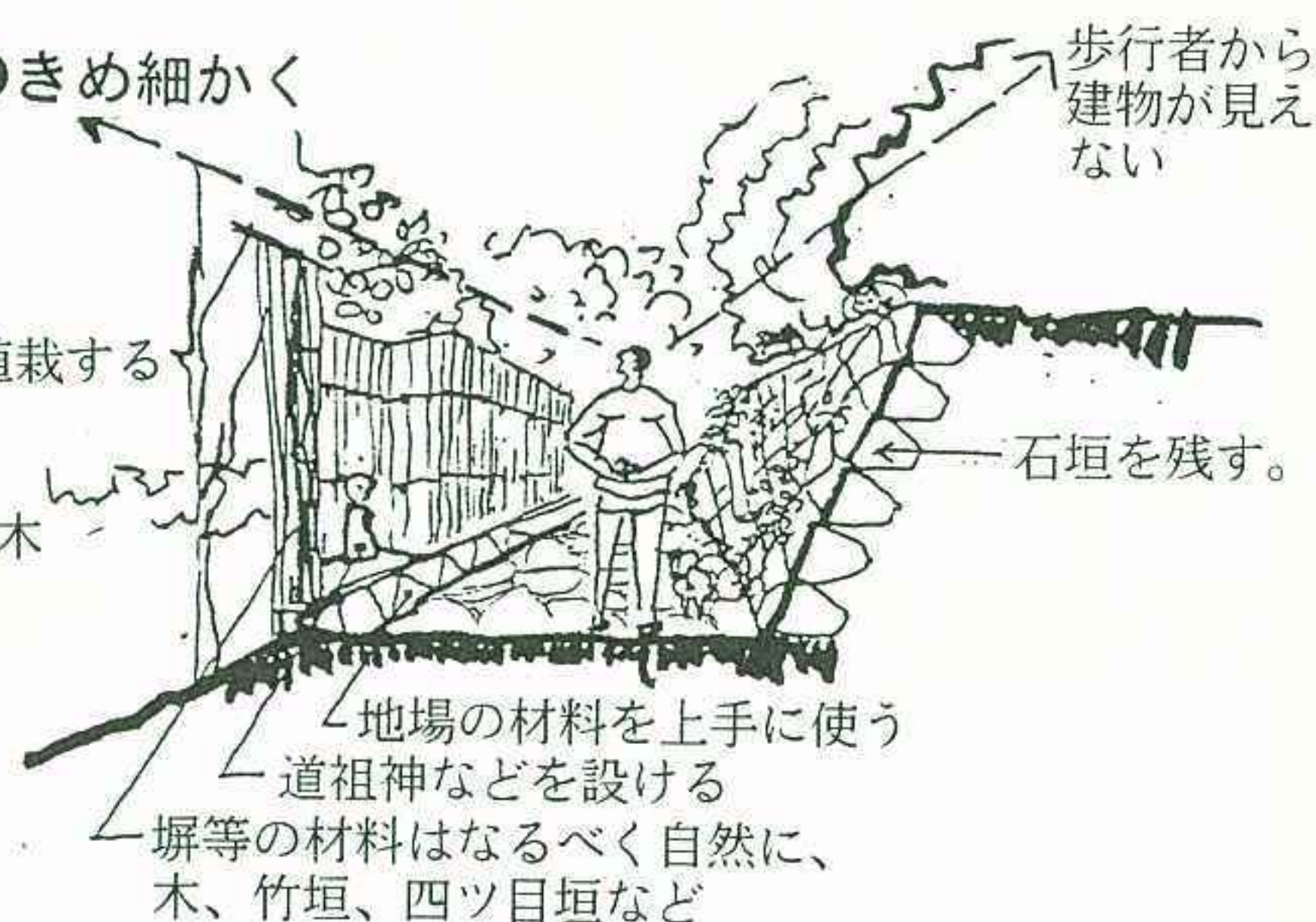


●きめ細かく

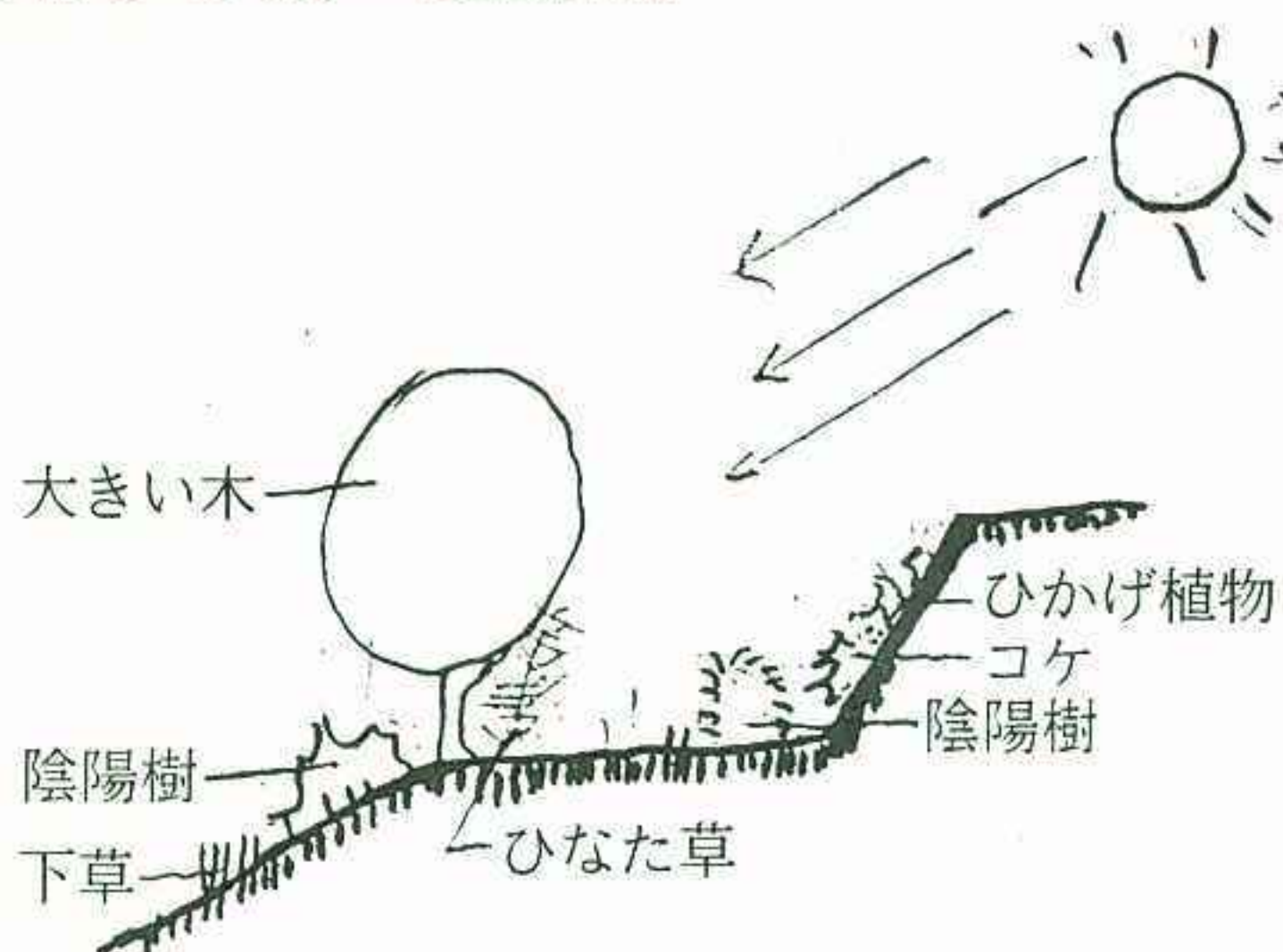
植栽する

歩行者から建物が見えない

石垣を残す。



●静かな背戸の生態系



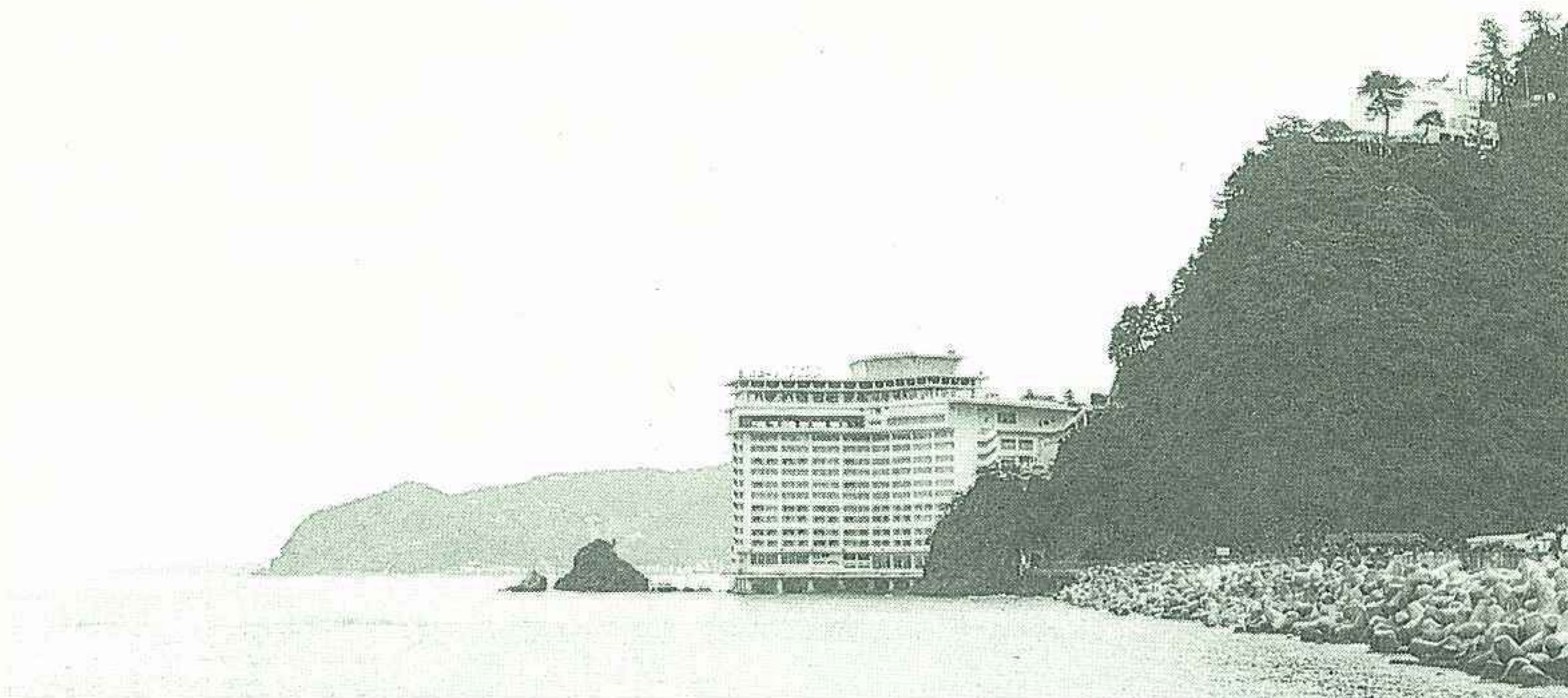
●美しいものに敏感であれ

切り取られた様に美しい風景が飛び出す場所は最も大切にしないといけない



キーワード	前提条件
○海と触れる場所	真鶴町に限らず「海と触れる場所」はそこで生活する者と、そこに礼節を持って訪れる者の公共の場であった。それらのおきてに守られて「海と触れる場所」の環境、風景は長い間自然の秩序を保って来た。

●このように海辺を独占しないようにする

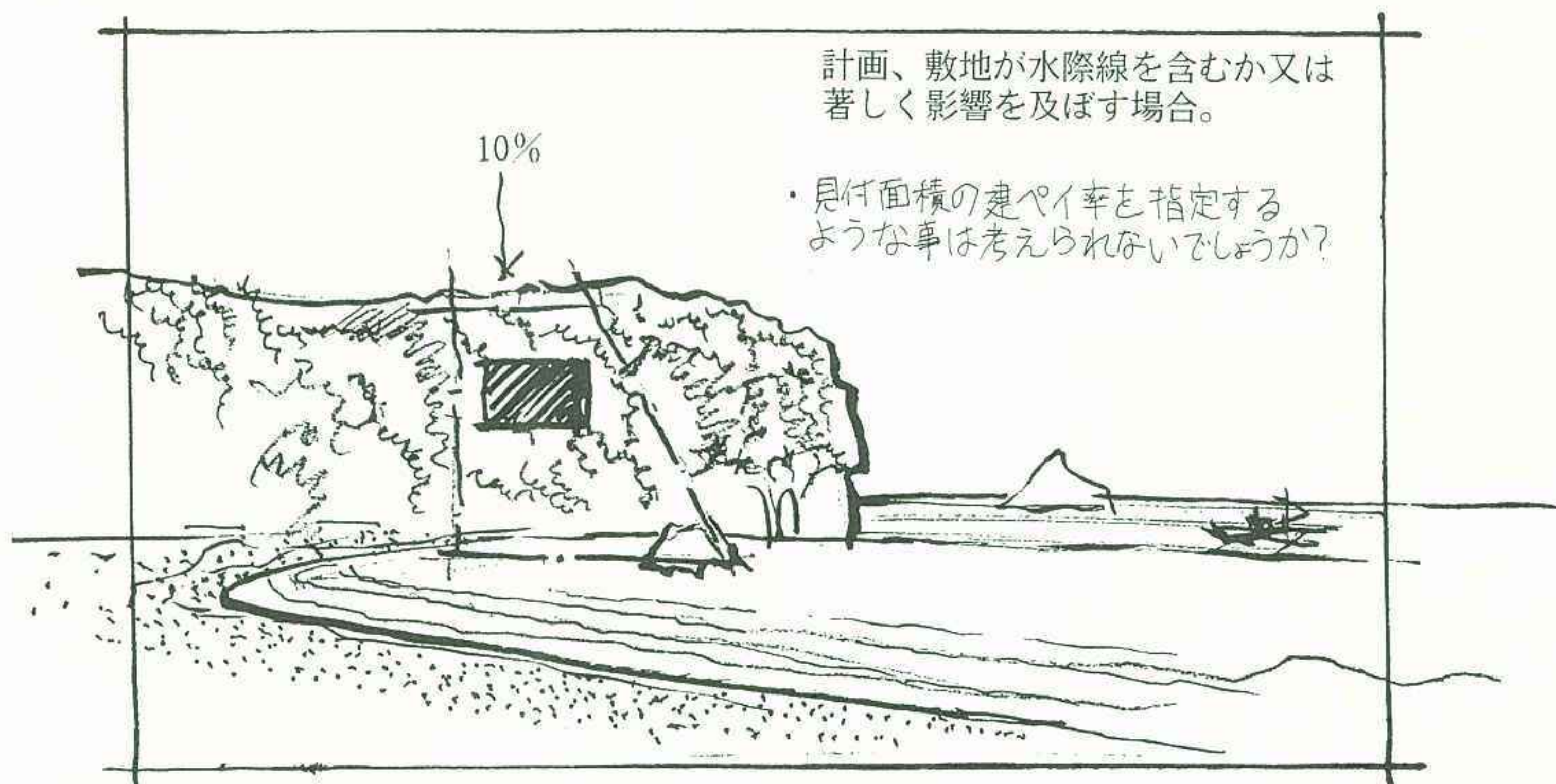


●たくさんの子供たちが海の慈愛を受けている

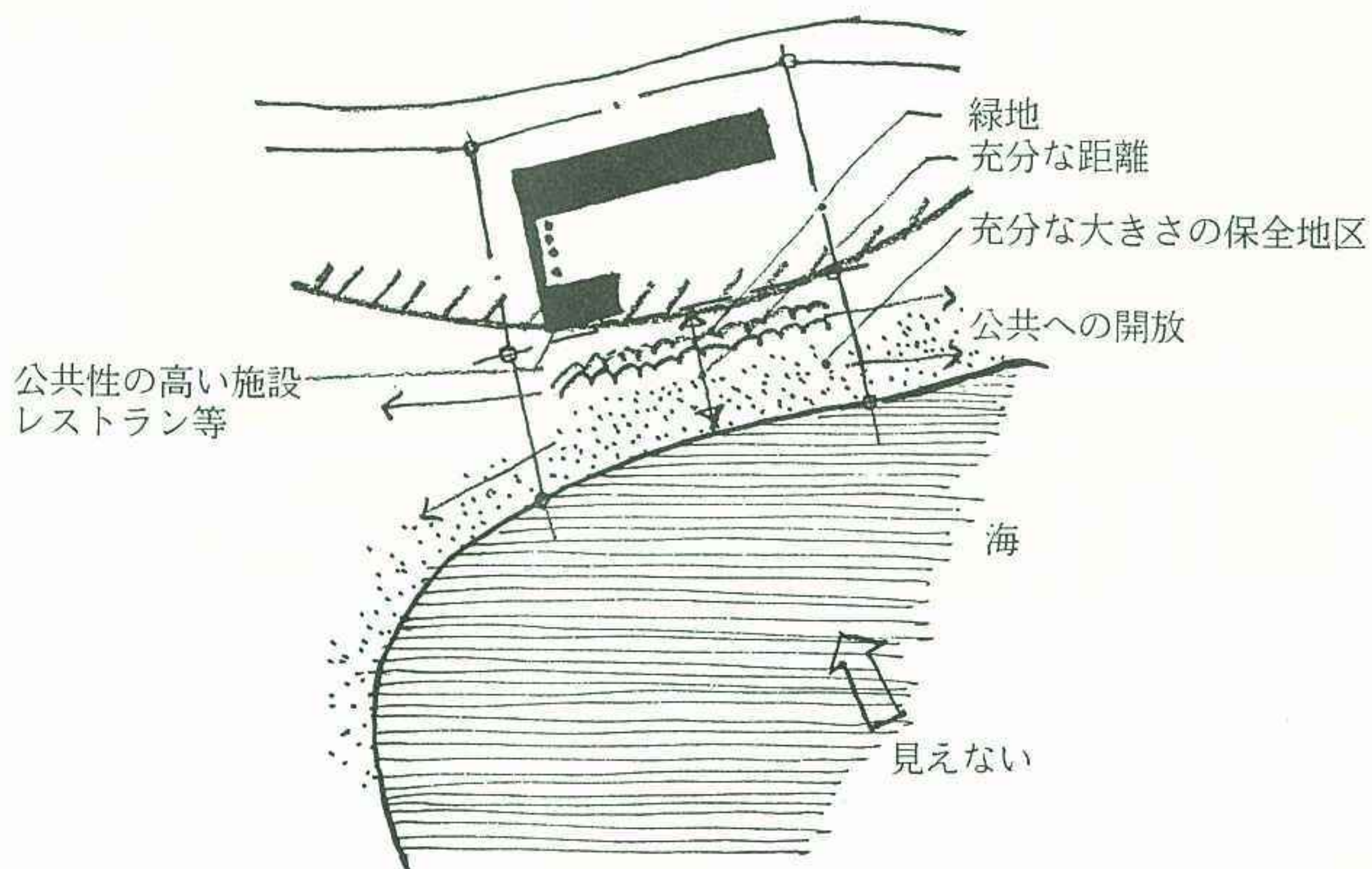


解 決 法	課 題
「海と触れる場所」は親水空間にしなければならない。 公共に開放すること。 海と触れる場所の自然環境をいっそう良くするためのあらゆるてだてを試みること。	・保全区域面積の指定 ・保全整備計画の策定

●風景の中で十分に小さい見付面積であること

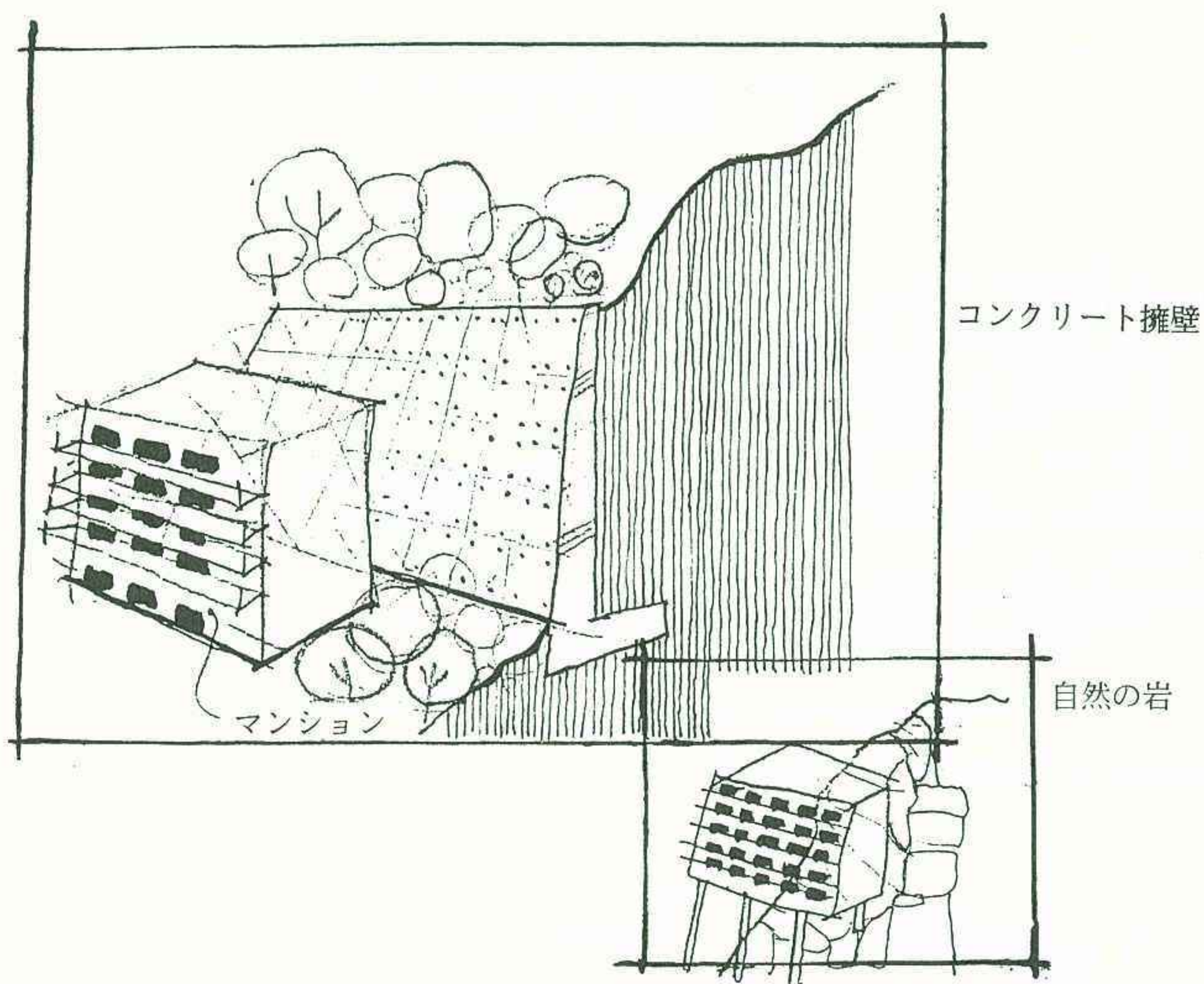


●水際より十分に距離を持ち、公共に解放すること

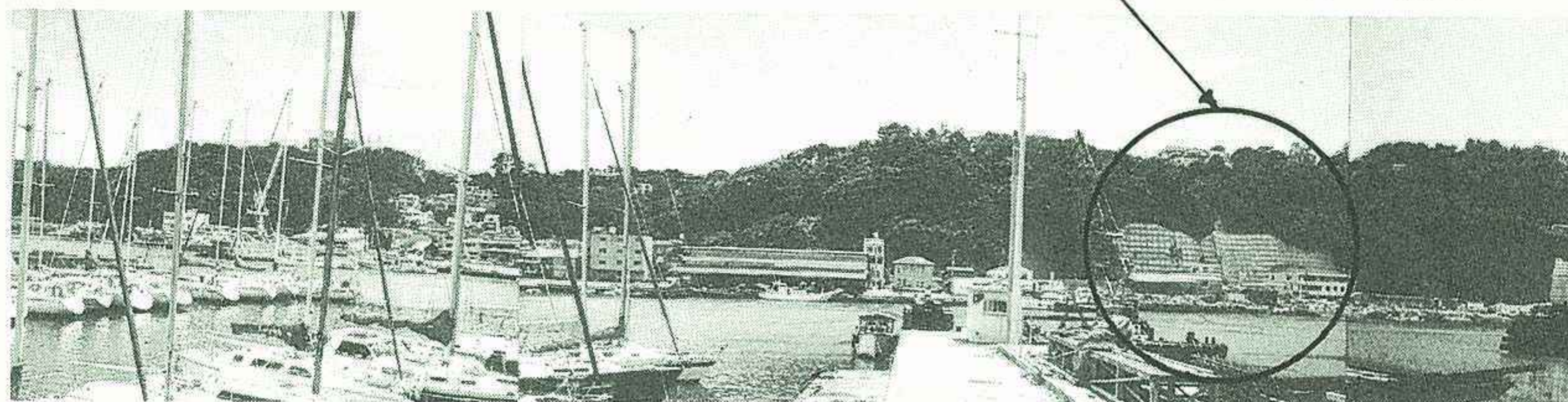


キーワード	前提条件
○斜面地	自然の斜面や岩はだが日に日に失われつつある。 そしてこれらもどこからでも見える、真鶴町の顔である。

●斜面地を破壊してしまう例



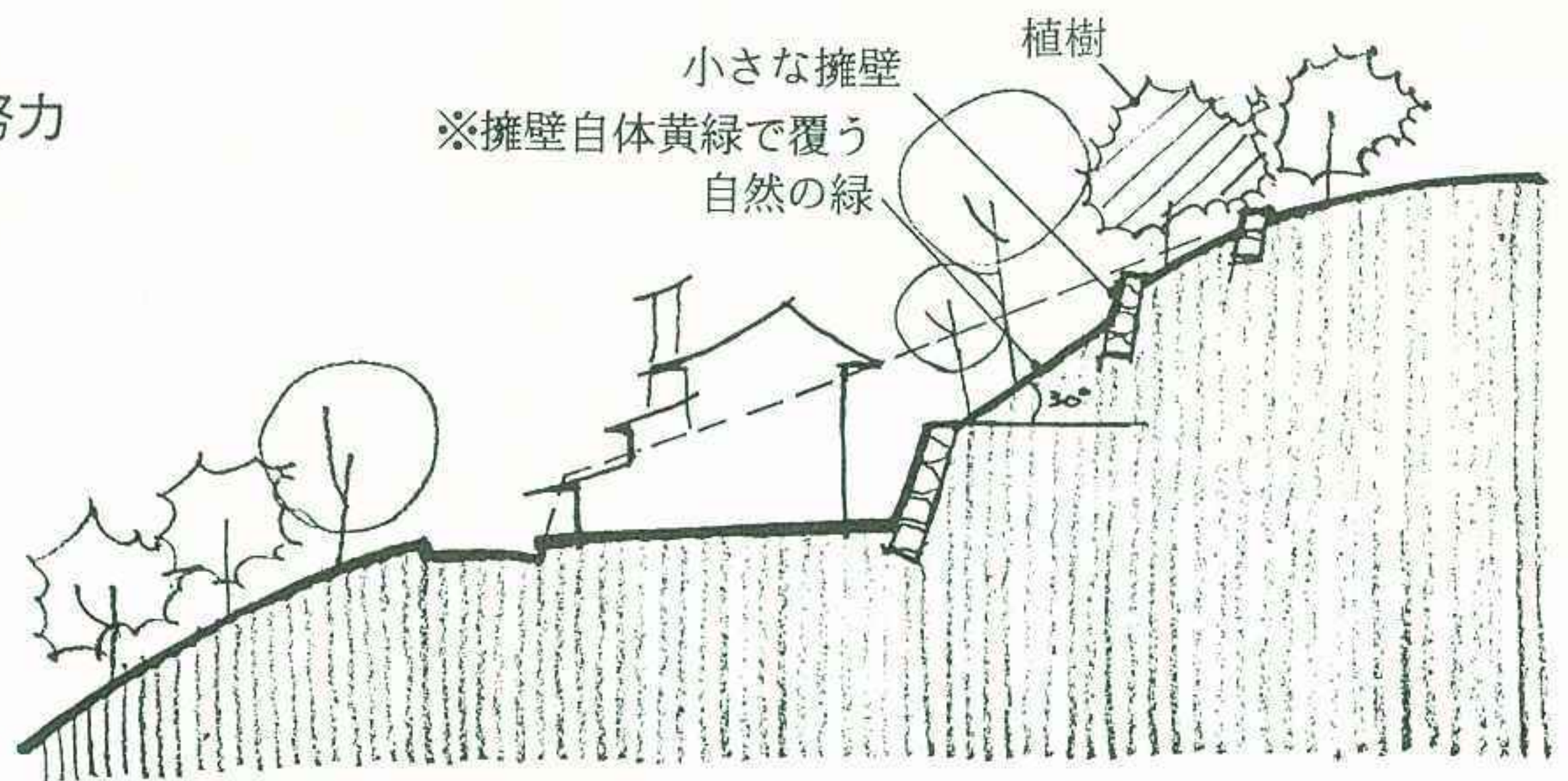
●緑を確保していない大地は誰の目にも痛々しい



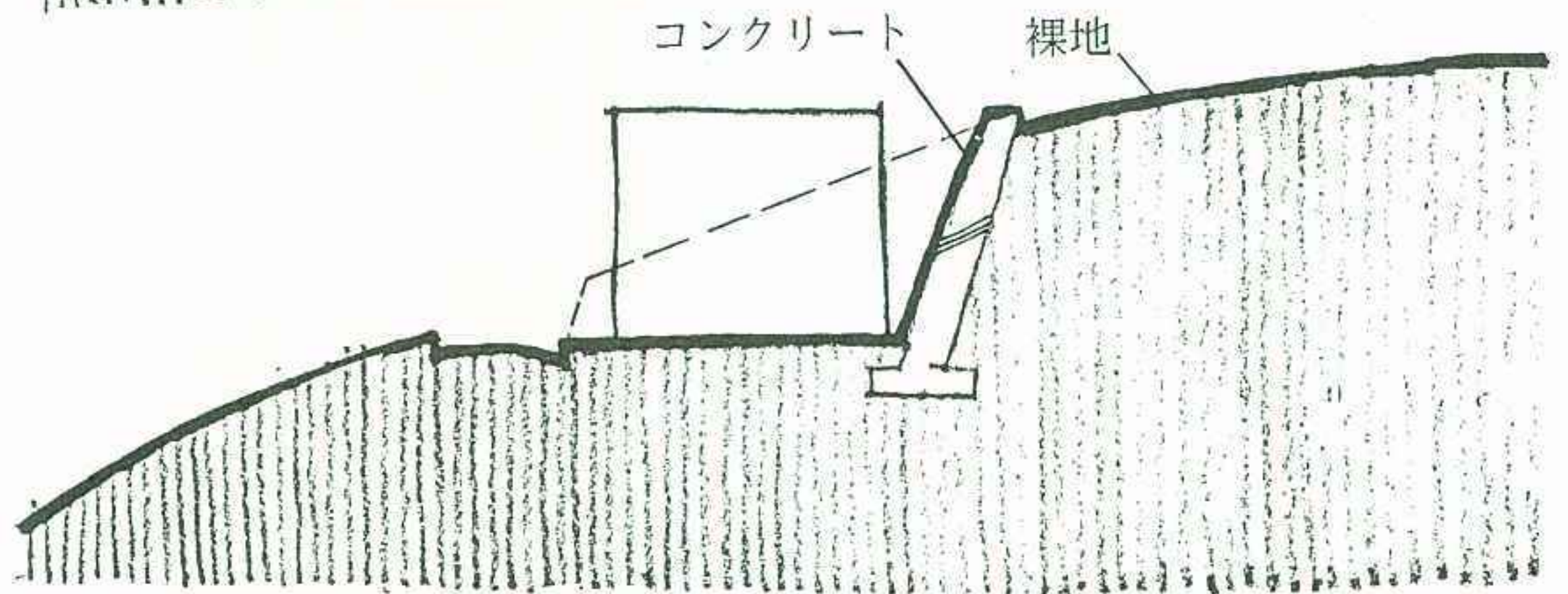
解 決 法	課 題
できる限り大地を壊さないようにすること。 大地が土地の地味や緑を復活できるように、斜面に沿った小さな石積みの擁壁で斜面地を形作ること。 小さな擁壁自体にも自然の生態が復活出来るよう、擁壁の材料、目地の材料、植生にも配慮すること。復活できない自然の岩肌等は、決して手を加えてはならない。	・擁壁の緑化計画 ・石積みの積極的利用

●自然の形に戻そうとする努力

YES

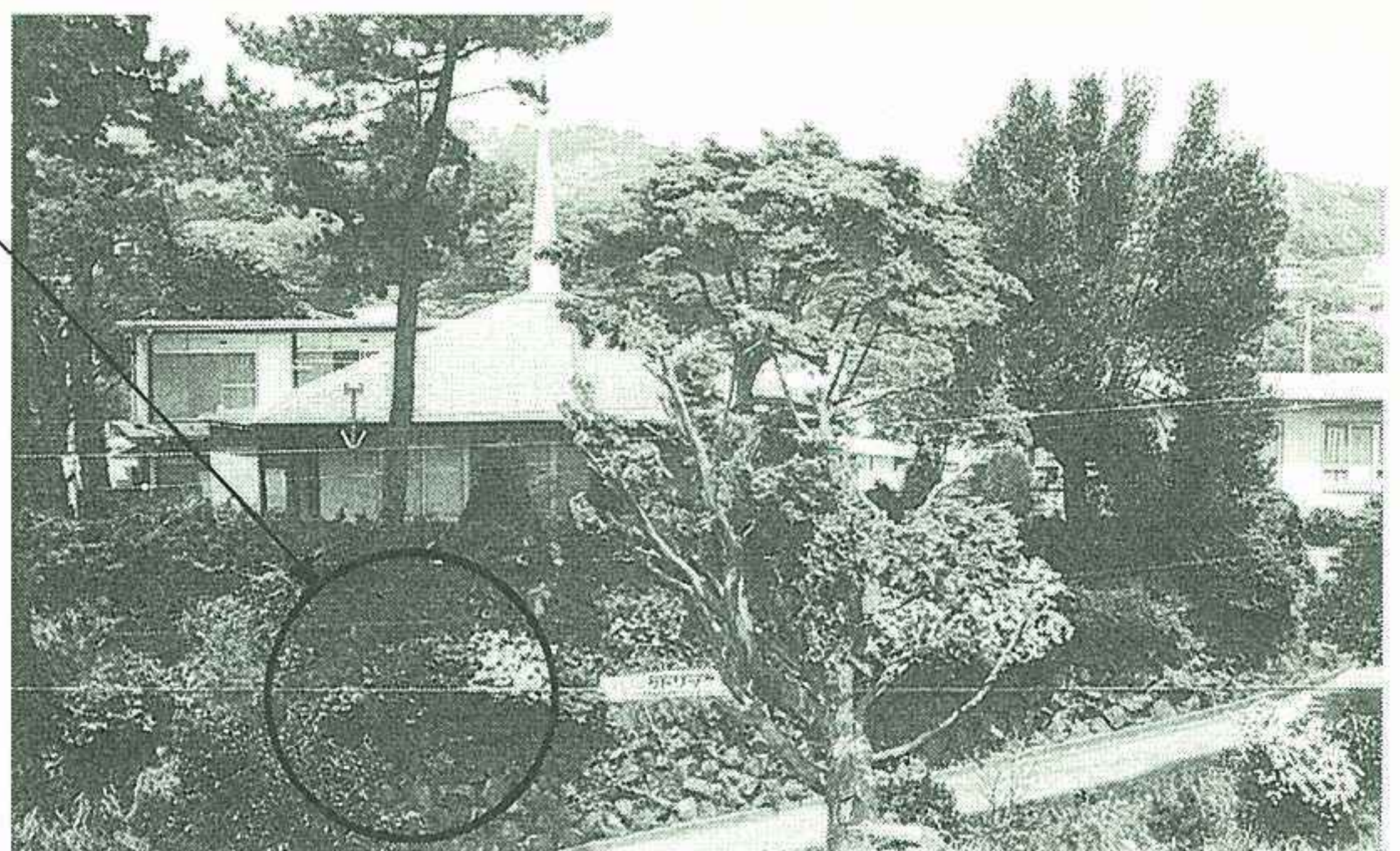
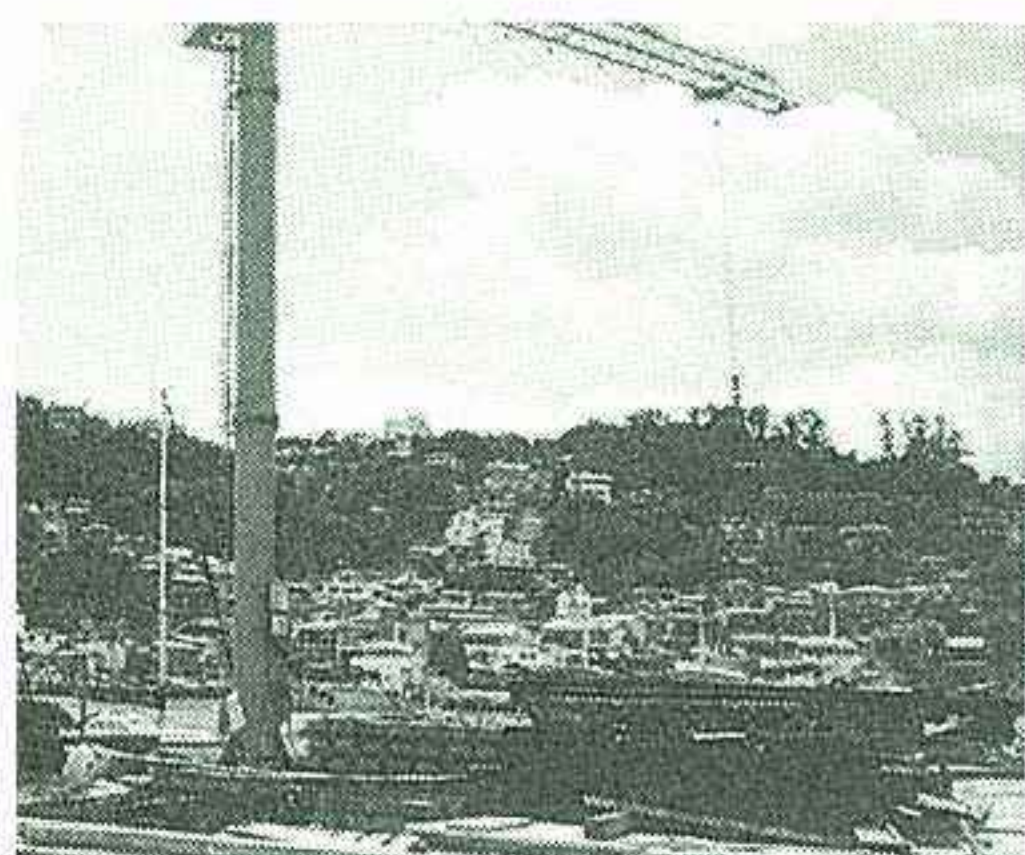


NO



●いつの間にか回復していく緑

擁壁がわからない程の緑



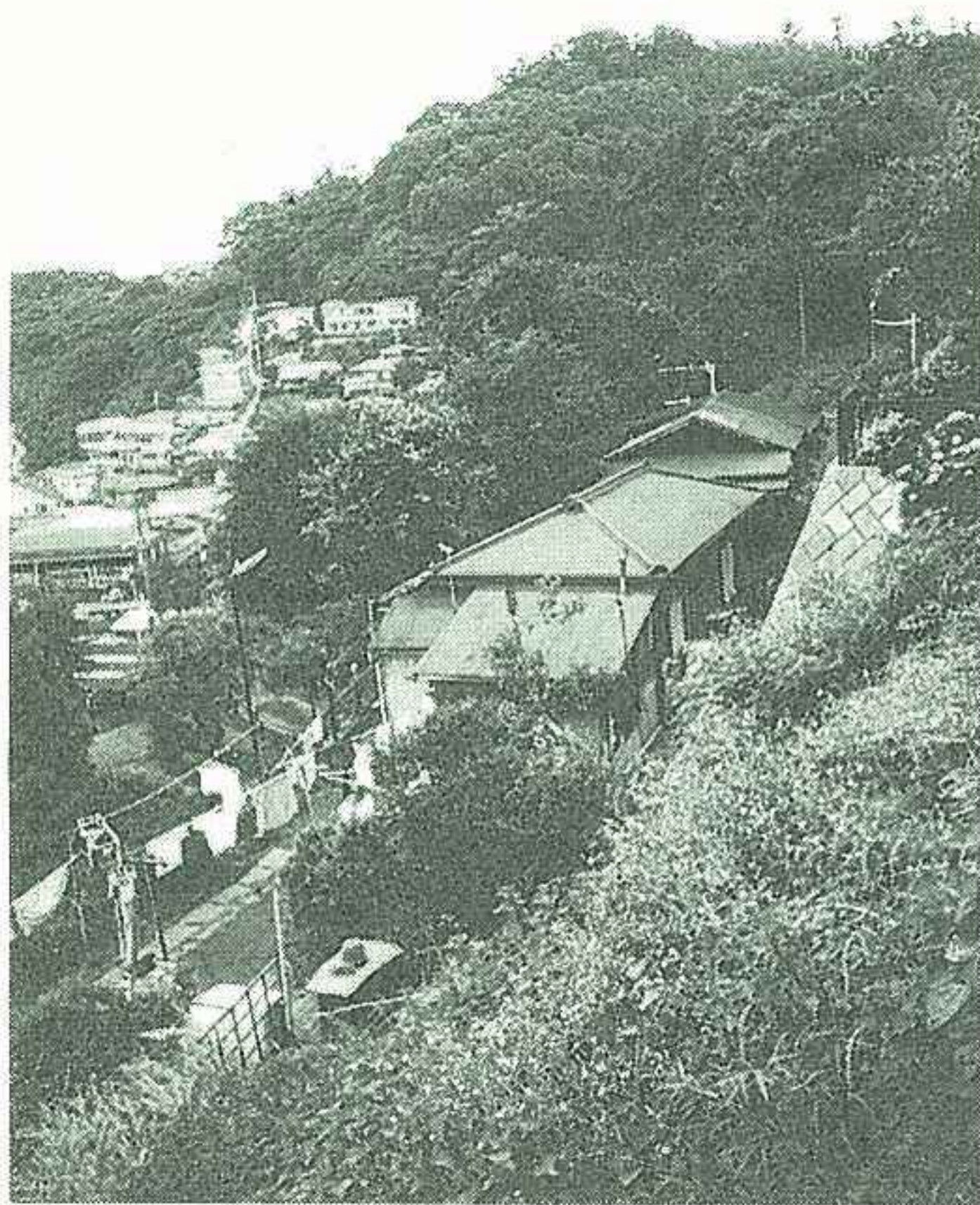
キーワード

前提条件

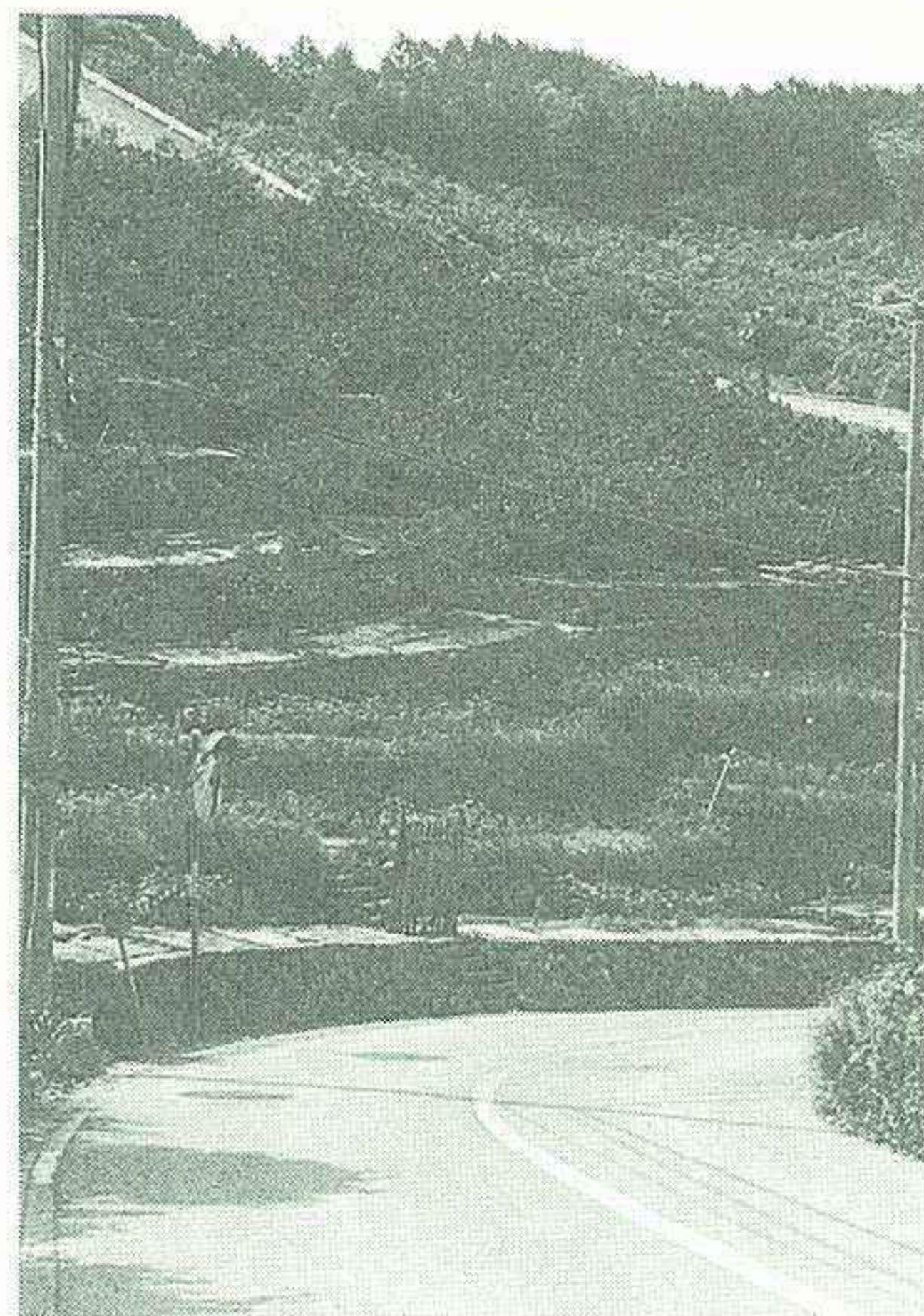
○敷地の修復

人は、一番良い場所に建物を建てたいという欲望をもっている。しかしこの欲望は、根本的に本来求めているはずの「良い環境」と矛盾している。

- 自ら住まう所以外は、優しく自然に返してあげる民家の例



- 代々に渡り、少しずつ修復された見事なみかん畑と石垣

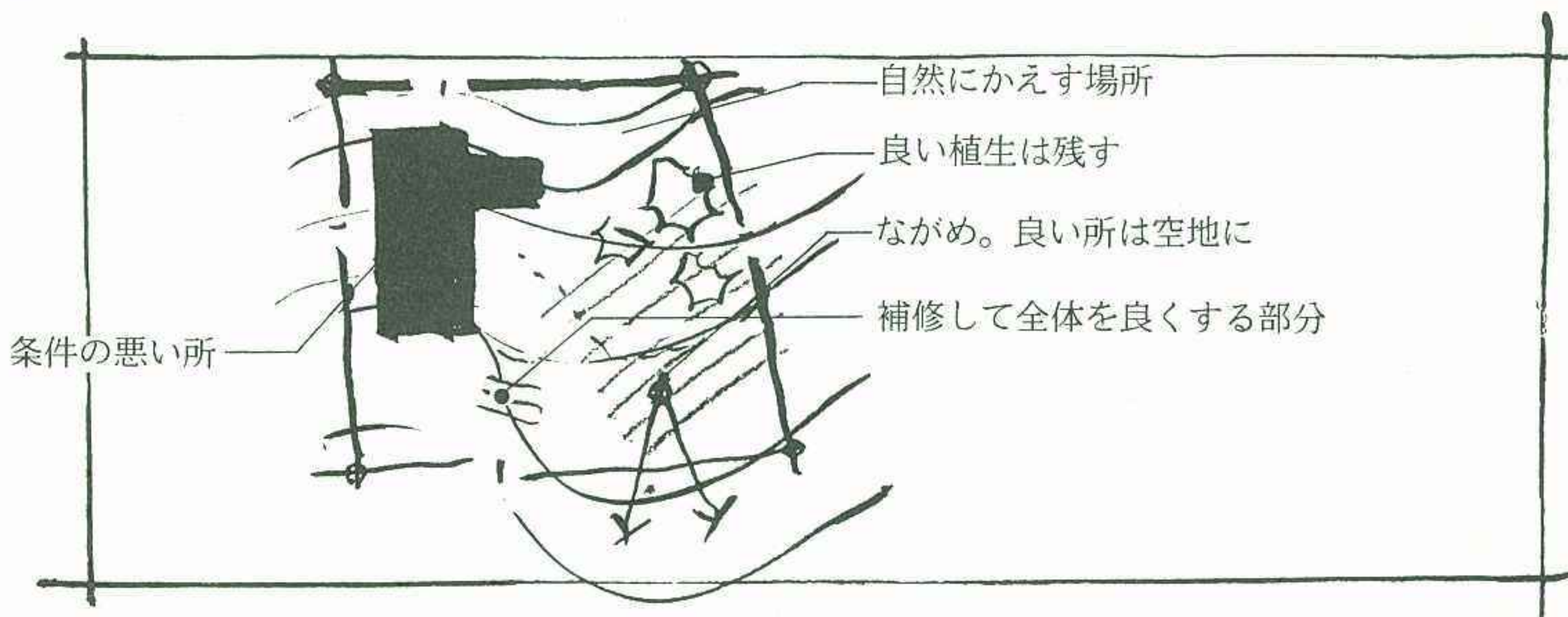


- 一番良い場所を求め続けて出来上がって行く町、誰も美しいと感じる事ができない

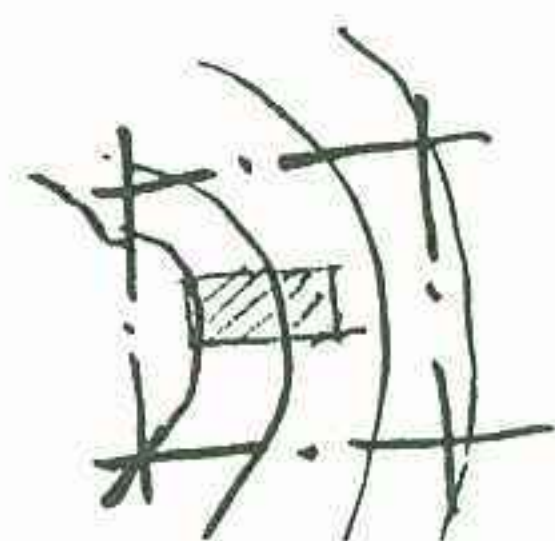


敷地の一番良い場所には、決して建物を建てないこと。
敷地と建物、環境と建物、風景と建物は、それぞれ生きている全体の生態系と考えること。
最も美しく、貴重で、快適で健全な場所には手をつけず、建物はそれらを補完できるような場所に建てること。
真鶴の大地が更に自然を維持して行けるよう、敷地全体を修復すること。

●一般事項



●どのような敷地でも修復型が考えられる



I 型
・へこみ土地型



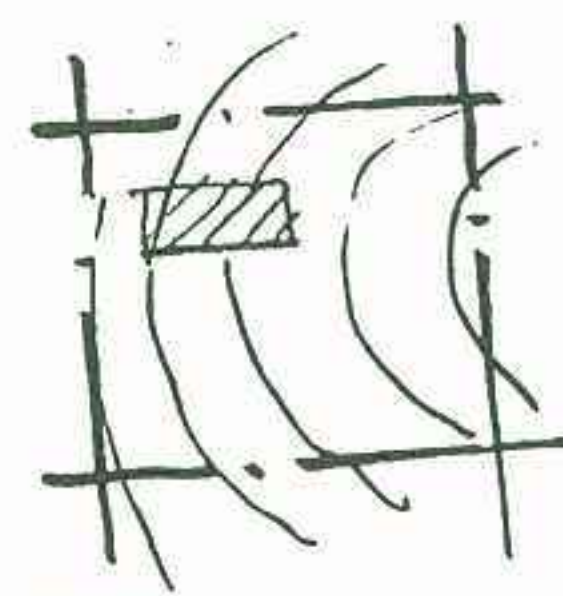
例 谷あいには造る



II 型
・平行斜面型



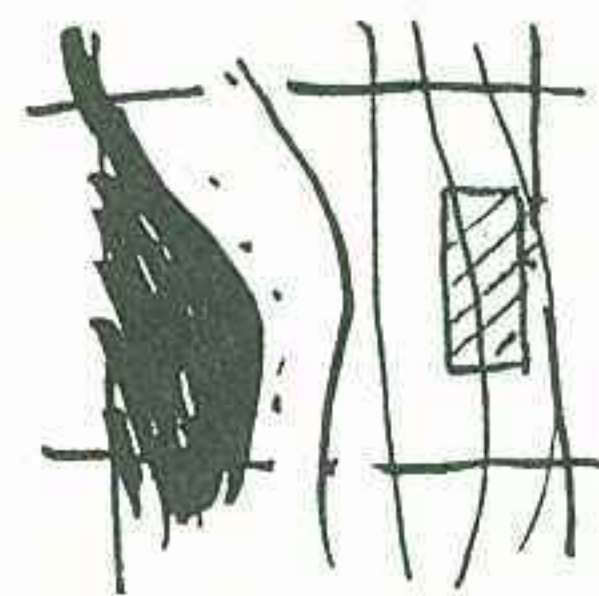
例 斜面に沿う



III 型
・出っぱり斜面型
又は頂上型



例 頂部はさける



IV 型
・水辺の場合

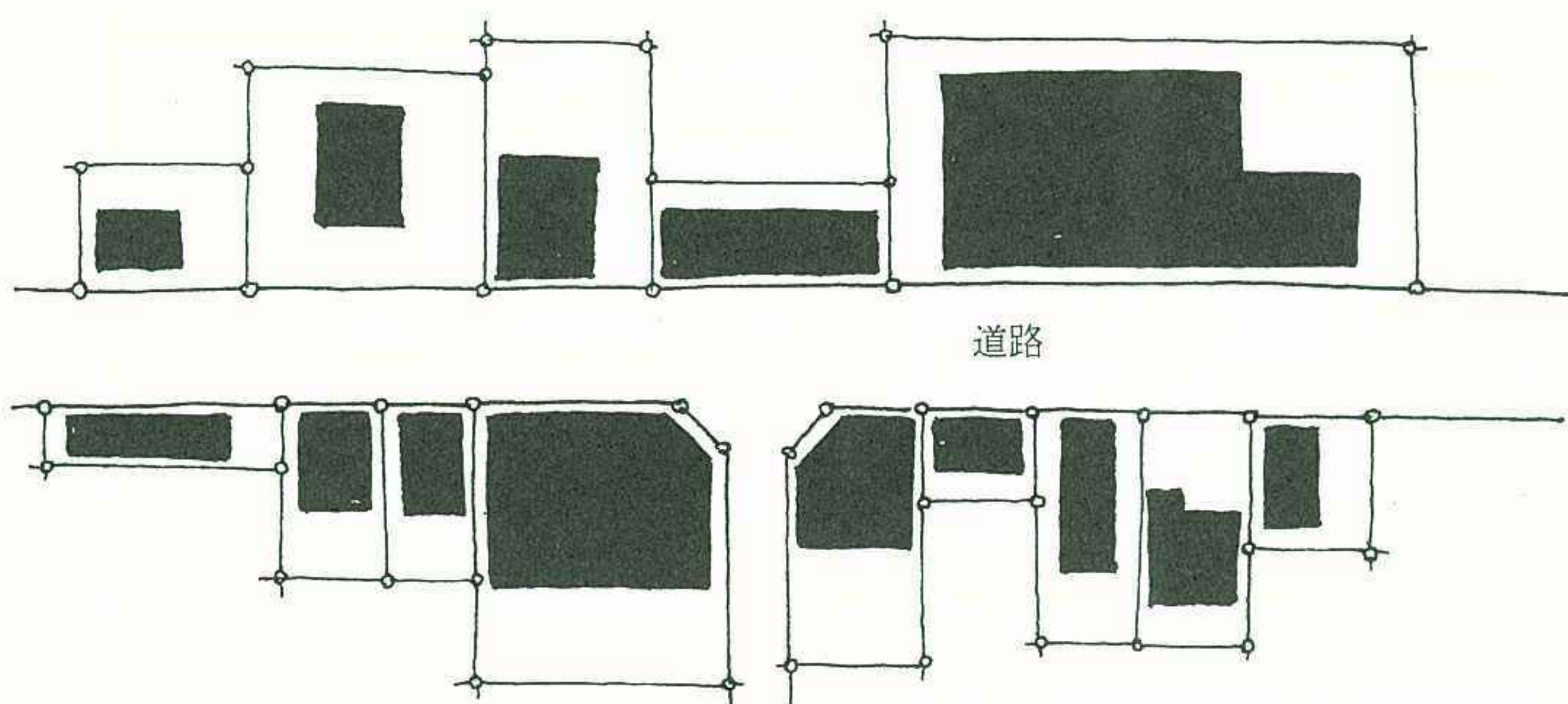


例 水辺から離す

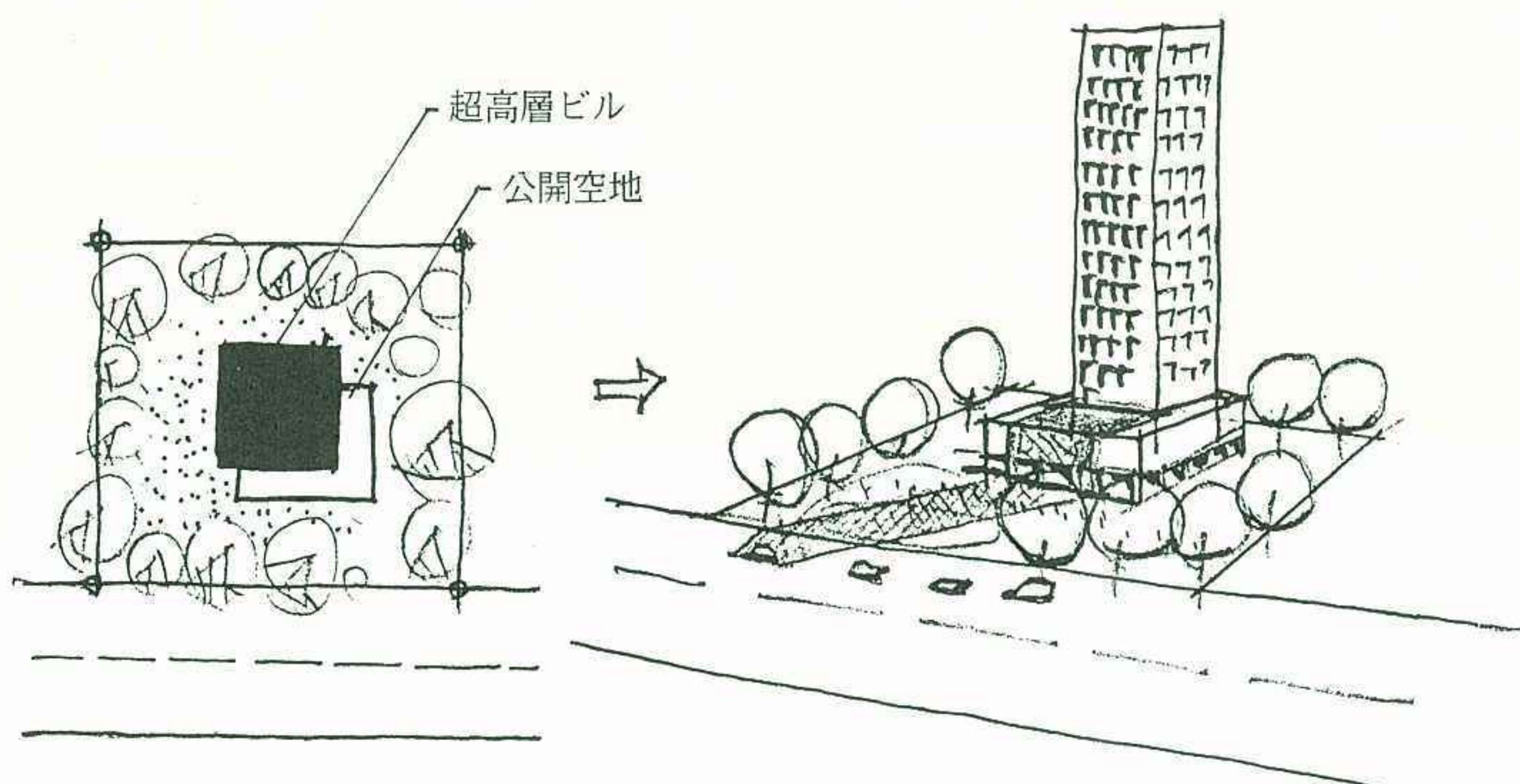


キーワード	前提条件
○生きている屋外	建物の間に「とり残された」屋外空間は、たいてい利用されないであろう。 真鶴町では長い間、大地の形を生かし、多くの自然を建築敷地に取り込んできた。

●建物の配置が生きていない町並

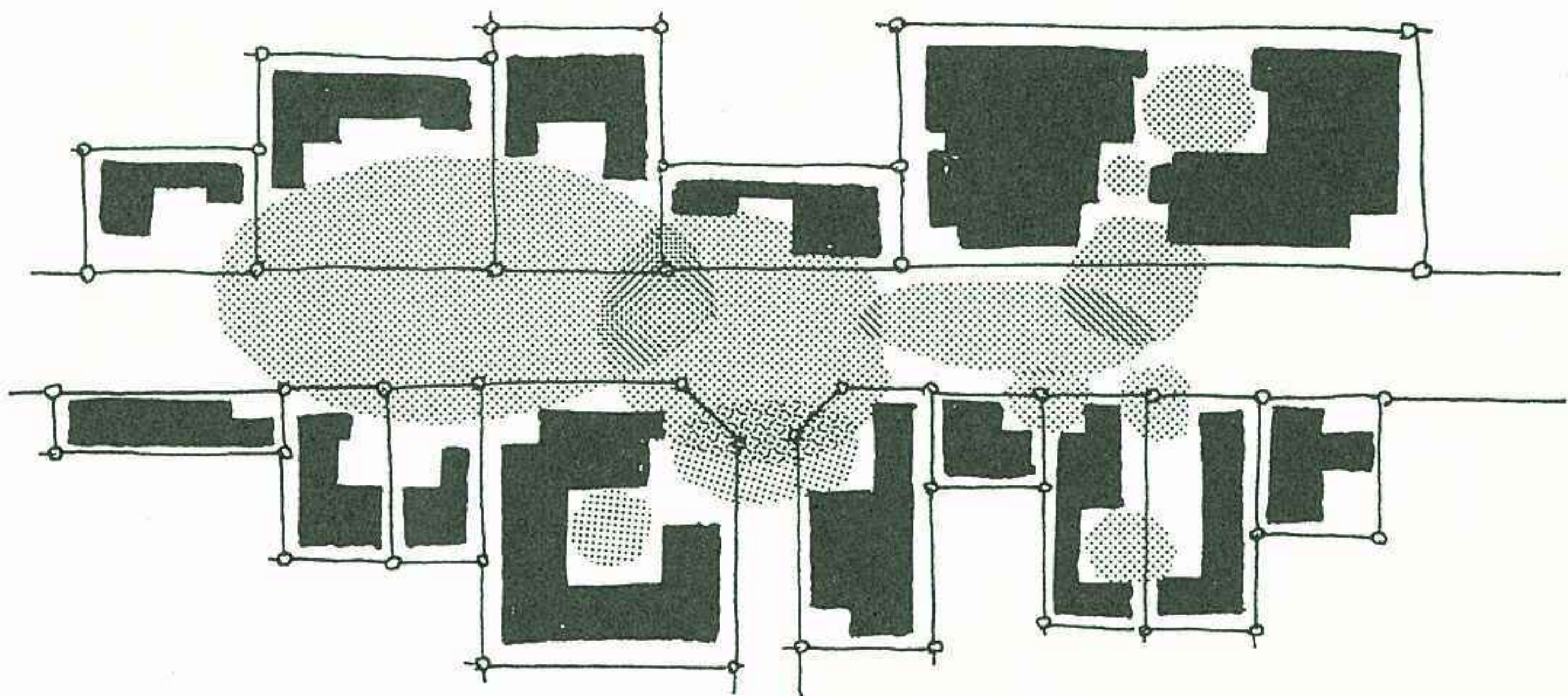


●単なる公開空地は、しばしば死んだ場所になってしまう

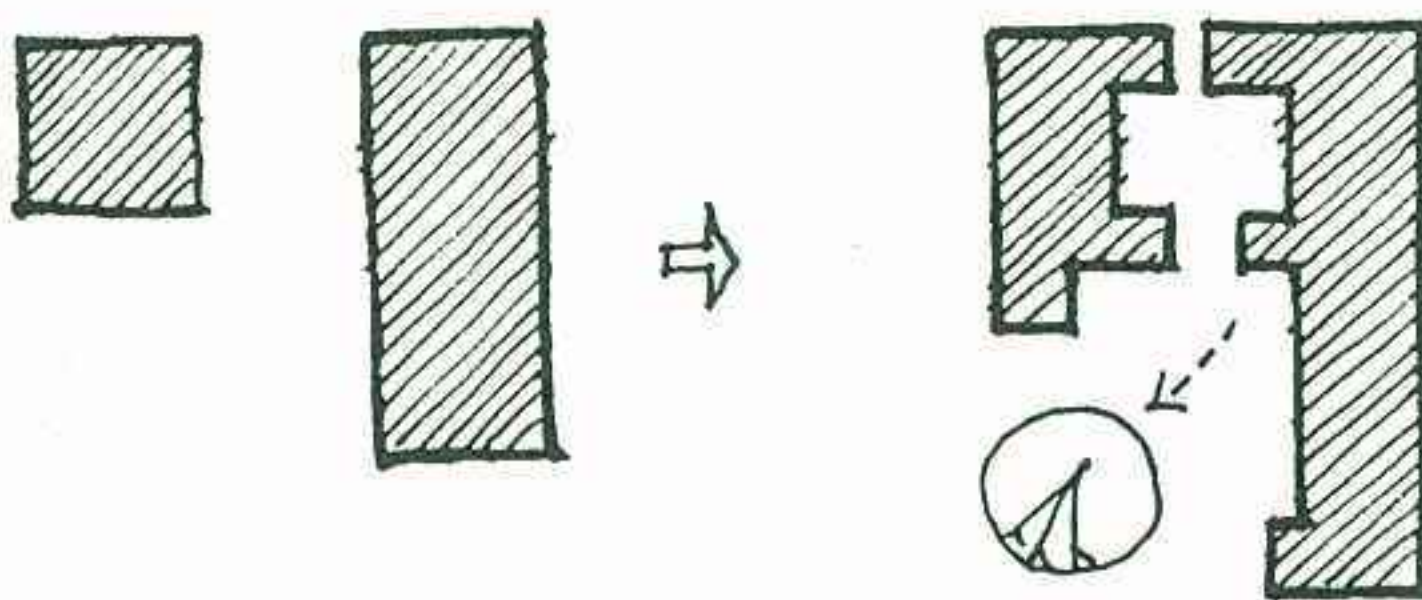


敷地のうち建築しない部分をもう一つ建築空間と考えること。
屋外空間が自然の空気を取り込めるよう形づくること。
敷地の形、眺望、陽当たり、公共空間（道路、広場など）
土地の傾斜などに留意し、それぞれが他と穏やかにつながって行くように計画すること。

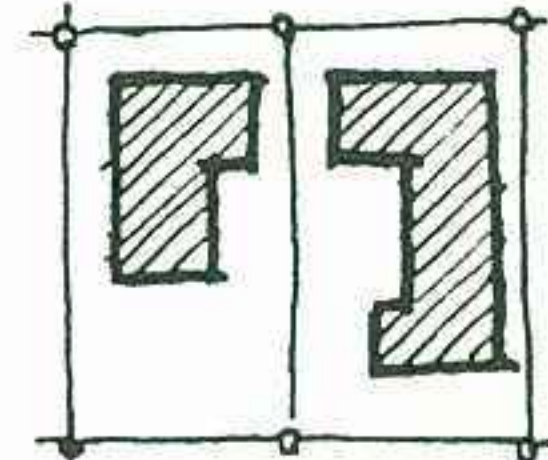
●個別の生きている屋外空間が、つながりをもっている例



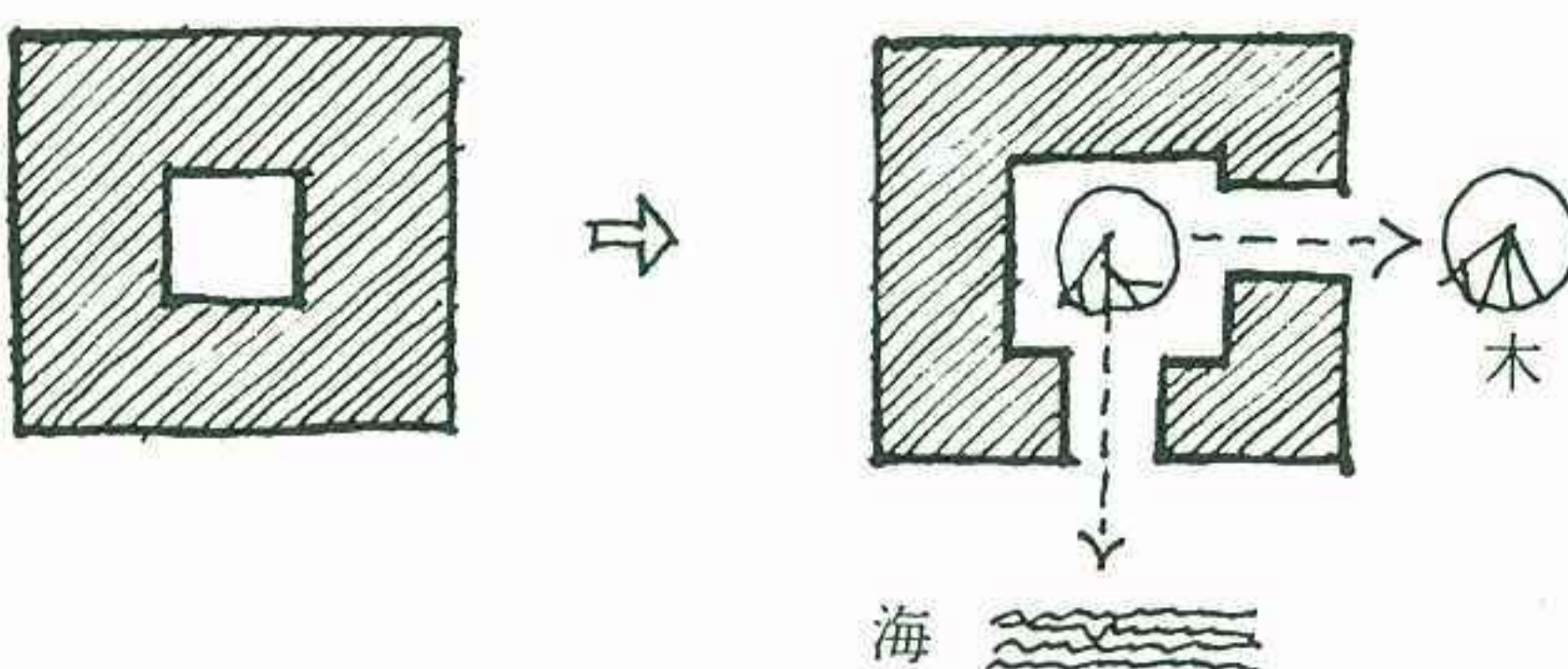
●屋外が明快な領域を作るように



●隣の家とうまくつながりをもって



●領域にうまく自然を取り込むように



●等高線に沿って低層で

